

学校整理番号(1205)

シラバス

2019年度

理学療法学科 1年次

学校法人 医療創生大学
千葉・柏リハビリテーション学院

教育課程 理学療法学科

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計		
					時間数	コマ	履修 単位数	時間数	コマ	履修 単位数	時間数	コマ	履修 単位数	時間数	履修 単位数	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	14	人間関係とコミュニケーション	講義	30	15	2							30	2	
			臨床コミュニケーション論	講義				30	15	2					30	2
			自然科学概論	講義	30	15	2								30	2
			医学情報処理	講義	30	15	2								30	2
			保健体育	講義	30	15	2								30	2
			医学英語	講義	30	15	2								30	2
			心理学	講義	30	15	2								30	2
			小計		180	12	30	2	0	0	210	14				
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	12	解剖学	講義・演習	120	60	4							120	4	
			生理学	講義・演習	120	60	4								120	4
			生理学演習	演習	45	23	1								45	1
			運動学Ⅰ	講義・演習	30	15	1								30	1
			運動学Ⅱ	講義・演習	60	30	2								60	2
			臨床運動学	演習				45	23	1					45	1
			小計		375	12	45	1	0	0	420	13				
			疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	14	病理学	講義	30	15	1							
	臨床心理学	講義			15	8	1								15	1
	内科学	講義・演習			30	15	1								30	1
	整形外科	講義・演習			30	15	1								30	1
	神経内科学	講義・演習			30	15	1								30	1
	精神医学	講義			15	8	1								15	1
	小児科学	講義			15	8	1								15	1
	臨床医学と画像診断	講義・演習			30	15	1								30	1
老年医学	講義・演習						30	15	1					30	1	
リハビリテーション医学	講義	15			8	1								15	1	
人体と薬理	講義	15			8	1								15	1	
予防医学と公衆衛生	講義	30			15	1								30	1	
救命救急の基礎	講義	15	8	1								15	1			
人体と栄養	講義	15	8	1								15	1			
小計		285	13	30	1	0	0	315	14							
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	4	リハビリテーション概論	講義	30	15	1								30	1	
		職業関連リハビリテーション学	講義	15	8	1								15	1	
		地域マネジメント論	講義				15	8	1					15	1	
		多職種連携演習	演習	45	23	1								45	1	
		小計		90	3	15	1	0	0	105	4					
専門分野	基礎理学療法学	6	障害評価学Ⅰ	講義				30	15	1				30	1	
			障害評価学Ⅱ	講義				30	15	1				30	1	
			基礎理学療法学	講義	30	15	2								30	2
			運動療法学総論Ⅰ	講義	30	15	1								30	1
			運動療法学総論Ⅱ	講義				30	15	1					30	1
			小計		60	3	90	3	0	0	150	6				

教育課程 理学療法学科

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計		
					時間数	コマ	履修 単位数	時間数	コマ	履修 単位数	時間数	コマ	履修 単位数	時間数	履修 単位数	
専 門 分 野	理学療法評価学	6	理学療法評価学Ⅰ	講義	60	30	2							60	2	
			理学療法評価学Ⅱ	講義	60	30	2								60	2
			理学療法評価学Ⅲ	講義				60	30	2					60	2
			理学療法画像評価学	講義				15	8	1					15	1
			小計		120	4	75	3	0	0	195	7				
	理学療法管理学	2	理学療法管理学	講義						30	15	2		30	2	
			小計						30	2	30	2				
	理学療法治療学	20	運動療法治療学	講義						30	15	1		30	1	
			物理療法治療学	講義				15	8	1				15	1	
			物理療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1	
			義肢装具学	講義				30	15	1				30	1	
			義肢装具学演習	演習				45	23	1				45	1	
			日常生活動作治療学	講義				30	15	1				30	1	
			中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ	講義				60	30	2				60	2	
			中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ	講義				30	15	1				30	1	
			骨・関節疾患理学療法治療学	講義				60	60	2				60	2	
			内部障害・呼吸器理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1	
			内部障害・呼吸器理学療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1	
			小児疾患理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1	
			脊髄損傷理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1	
			スポーツ理学療法学	講義				30	15	1				30	1	
			総合理学療法学Ⅰ	講義	30	15	1							30	1	
			総合理学療法学Ⅱ	講義				60	30	2				60	2	
			理学療法治療学研究	講義							15	8	1	15	1	
	小計		30	1	540	17	45	2	615	20						
	地域理学療法学	3	生活環境論	講義				30	15	1				30	1	
			地域理学療法学	講義	30	15	1							30	1	
地域理学療法学演習			演習				45	23	1				45	1		
小計				30	1	75	2	0	0	105	3					
臨床実習	20	見学実習	実習	45		1							45	1		
		検査実習	実習				135		3				135	3		
		評価実習	実習				180		4				180	4		
		総合臨床実習Ⅰ	実習							360		8	360	8		
		総合臨床実習Ⅱ	実習							360		8	360	8		
		小計		45	1	315	7	720	16	1080	24					
理学療法学特論	3	理学療法学特論Ⅰ	演習	45		1							45	1		
		理学療法学特論Ⅱ	演習				45		1				45	1		
		理学療法学特論Ⅲ	講義							30		1	30	1		
		小計		45	1	45	1	30	1	120	3					
合計	104	合計	1260	51	1260	38	825	21	3345	110						

	I 基礎分野
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論</p>	科学的思考の基盤 人間と生活
	14単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人間関係とコミュニケーション		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	淵橋潤也
教 育 目 標	【一般目標】 ・コミュニケーション能力を向上させ、人間関係の構築が出来るようになる。 ・傾聴、共感出来る力を修得する。						
	【行動目標】 ・自分の意見を考えて述べられるようになる。 ・相手の考えを共有できる共感力を身につける。 ・医療現場で実践できるコミュニケーション能力を修得する。						
成績評価方法	・実技テストとグループワークの発表内容で判断する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	4月10日(水)	3	1	オリエンテーション、自己紹介・自分自身を知ろう!	淵橋潤也		
2		4	2	コミュニケーションについて			
3	4月17日(水)	3	1	コミュニケーションスキルを学ぶ			
4		4	2	グループワーク			
5	4月24日(水)	3	1	伝える力①			
6		4	2	伝える力②			
7	5月 15日(水)	3	1	会話力を鍛える			
8		4	2	グループワーク			
9	5月18日(土)	3	1	傾聴能力を学ぶ			
10		4	2	グループワーク			
11	5月22日(水)	3	1	話し方のテクニックを学ぶ(心理学から)			
12		4	2	グループワーク			
13	5月29日(水)	3	1	論理的な話し方			
14		4	2	グループワーク			
15	6月 5日(水)	3	1	応用力を身につける			
16		4	2	グループワーク			
	6月19日(水)	3	1	実技試験			
		4	2				
履修者へのコメント							
・医療人、社会人としてのコミュニケーション能力は必須能力です。日常生活から実践できるようになりましょう!							
テキスト							
・適宜、プリント配布							
参考書							
・特になし							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
自然科学概論		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	齊藤賢治
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーションに必要な科学的思考の基礎を身につける。 自然科学領域の物理と化学のリハビリテーションに関連する事項を理解する。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーションに必要な物理学の応用について説明できる。 リハビリテーションに必要な基礎的な化学的事項について説明できる。 将来、リハビリテーションにおける課題に対し、科学的・論理的に考察を行い、専門医療技術者として、それらを合理的に解決できる。 						
	成績評価方法	定期試験により評価する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月 9日(火)	3		科学の基礎知識, 力とは, 力の釣合い, ベクトルとスカラー	齊藤賢治		
2	4月16日(火)	3		物体の運動, 速度・加速度, ニュートンの法則, 運動方程式			
3	4月23日(火)	3		釣り合い, モーメント, 人体の重心のとらえ方			
4	4月30日(火)	3		てこと滑車, 人体のてこ, 滑車のリハビリテーションへの応用			
5	5月 7日(火)	3		仕事とエネルギー, エネルギー保存の法則			
6	5月14日(火)	3		等速円運動, 単振動, 波動の基礎			
7	5月21日(火)	3		静止流体, 表面張力, 弾性薄膜, 浮力, 人体と静止流体			
8	5月28日(火)	3		運動流体, 流体抵抗, 血液の流れ, 水中でのリハビリ			
9	6月 4日(火)	3		温度, 熱, 体温と体温測定			
10	6月11日(火)	3		音, 音の医療への応用			
11	6月18日(火)	3		光, 光の医療への応用			
12	6月25日(火)	3		人体と化学, 原子, 分子, 生体高分子			
13	7月 2日(火)	3		物質の3態, 化学結合, 化学式, 有機化合物, 物質質量			
14	7月 9日(火)	3		化学反応, 酸化・還元, モル濃度, 酸性と塩基性			
15	7月16日(火)	3		人体での化学反応, 酵素, エネルギー代謝, 器官での反応例			
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前に、授業内容のプリントを配布するので、予習しておき、授業をしっかりと聞くことが大切です。授業後、演習問題に取り組むことにより、より一層、理解を深めることができます。 オフィスアワー(授業日12:00~13:00)がありますので、疑問・質問等あれば、受け付けます。授業で、理解不足があった場合、そのままにせず、解決しておくことが大切です。 							
<p>テキスト プリントを配布する。</p>							
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療系のための物理 第2版 : 佐藤幸一 (東京教学社) 高校化学の一般的な参考書 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学情報処理		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	飯塚尚美
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報端末（パソコン、iPad）を利用するための基礎知識と活用方法を学びます。 情報の収集、加工、発信の全てを体験して、総合的に情報処理を行うための基礎を身に付けることを目標とします。 <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の活動のいろいろなシーンで、情報端末を上手に利用できることを目指します。 						
	成績評価方法	・定期試験（実技試験を含む）と、発表課題や提出物などから総合的に評価します。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月10日(水)	1	3	<iPad>基本操作（文書作成、情報収集、アプリの追加）	飯塚尚美		
2		2	4	<パソコン・講義>タイピング、ICT環境の理解、情報モラル			
3	4月17日(水)	1	3	<iPad>基本操作（カメラ、写真）、プレゼンテーション資料の作成			
4		2	4	<パソコン・講義>タイピング、コンピュータ機器、基本操作			
5	4月24日(水)	1	3	<iPad>プレゼンテーション資料の作成			
6		2	4	<パソコン>タイピング、情報収集、文書作成の基本			
7	5月 8日(水)	1	3	<iPad>プレゼンテーションソフトを利用した発表			
8		2	4	<パソコン>タイピング、レポート作成の基本			
9	5月15日(水)	1	3	<iPad>プレゼンテーションソフトを利用した発表			
10		2	4	<パソコン>タイピング、表計算の基本			
11	5月22日(水)	1	3	<iPad>プレゼンテーションソフトを利用した発表			
12		2	4	<パソコン>タイピング、表計算の基本			
13	5月29日(水)	1	3	<パソコン>文書作成の応用、プレゼンテーション			
14		2	4	<パソコン>表計算の応用・グラフ作成			
15	6月 5日(水)	1	3	<パソコン>タイピング、文書作成と表計算の総合演習			
16		2	4	期末試験			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> 情報端末の利用方法を学ぶことで、専門科目の学びに活かしていけるよう、さらにコミュニケーションを促進するツールとして活用できるよう、しっかり取り組んでください。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> 大学一年生のための情報リテラシー（丸善出版） 							
参考書							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
保健体育		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	前原千佳
教 育 目 標	【一般目標】 スポーツ実践を通して、他者とのコミュニケーションを図ることで、スポーツへの理解はもとより社会性を身につける。						
	【行動目標】 授業に関わる準備・片付けや授業時間中における運営の補助などを積極的に行う。 また、授業時間中における活動方法・内容などは、チームメイトや仲間と密にコミュニケーションをとり、主体的に決めていく。						
成 績 評 価 方 法	「授業参画」および「リアクションペーパー」により行う。 授業参画は各授業への出席と態度（授業準備や授業運営補助など）を評価する。 また、リアクションペーパーは初回と最終回に実施し、その取り組み態度を評価する。 これらの合計点（全体評価）は100点とし、60点以上の者を合格とする。 なお、全体評価における各評価観点の割合は以下の通りである。 ただし、出席回数が3分の2未満の者は上記に関係なく、不合格とする。 【割合】 授業参画 95% リアクションペーパー5%						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	4月12日(金)	1	3	オリエンテーション・パラスポーツを知る	前原千佳		
2		2	4				
3	4月19日(金)	1	3	パラスポーツ			
4		2	4				
5	4月26日(金)	1	3	フットサル			
6		2	4				
7	5月10日(金)	1	3	フットサル			
8		2	4				
9	5月17日(金)	1	3	アルティメット			
10		2	4				
11	5月24日(金)	1	3	アルティメット			
12		2	4				
13	5月31日(金)	1	3	ベースゲーム			
14		2	4				
15	6月 7日(金)	1	3	ベースゲーム			
16		2	4				
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に楽しく身体を動かしましょう！ ・雨天時は内容を変更して実施します。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
医学英語		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	佐藤喬
教 育 目 標	<p>【一般目標】 現代の若者には、英語の素養は不可欠と思うが、例年英語嫌いの人が多い。一人でも多く、英語のセンスを身につけ、英語が好きになる人を育てたい。</p> <p>【行動目標】 英語の基本は語順の理解であると考えているので、並べかえに力を入れる。併せて、医学、リハビリ関連の表現、用語を覚える。</p>						
	成績評価方法	定期試験及び小テストの得点で総合的に評価する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月 9日(火)	4		並べかえ500問+身体の単語	佐藤喬		
2	4月16日(火)	4		並べかえ500問+リハビリ用語			
3	4月23日(火)	4		並べかえ500問+症状の表現			
4	4月30日(火)	4		並べかえ500問+リハビリ動作の表現			
5	5月 7日(火)	4		並べかえ500問+病名用語			
6	5月14日(火)	4		並べかえ500問+患者応接用例			
7	5月21日(火)	4		並べかえ500問+医学関連基本単語			
8	5月28日(火)	4		並べかえ500問+英文レポートの作り方			
9	6月 4日(火)	4		並べかえ500問+身体の単語 (2回目)			
10	6月11日(火)	4		並べかえ500問+リハビリ用語 (2回目)			
11	6月18日(火)	4		並べかえ500問+症状の表現 (2回目)			
12	6月25日(火)	4		並べかえ500問+リハビリ動作の表現 (2回目)			
13	7月 2日(火)	4		並べかえ500問+病名用語 (2回目)			
14	7月 9日(火)	4		並べかえ500問+応接表現 (2回目)			
15	7月16日(火)	4		並べかえ500問+英文レポート (2回目)			
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語は世界の共通語として定着している。英語を身につけ、グローバル社会に適應できる職業人になってほしい。 							
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自作プリントを配布する。 							
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時案内する。 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
心理学		講義	前期	PT1年	2単位	30時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 1. 認知心理学の基本的知識を網羅的に理解する。 2. 脳の機能と構造の概略を理解する。 3. 心理的・精神的な障害について理解する。 【行動目標】 上記1.～3.について、他人にわかりやすく説明できるようになる。						
	成績評価方法	定期試験により評価する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者	松平友見	
		A組	B組				
1	4月 9日(火)	1		心理学概論 ― 認知心理学を中心に ―			
2	4月16日(火)	1		感覚			
3	4月23日(火)	1		知覚			
4	4月30日(火)	1		記憶①			
5	5月 7日(火)	1		記憶②			
6	5月14日(火)	1		知能①			
7	5月21日(火)	1		知能②			
8	5月28日(火)	1		学習			
9	6月 4日(火)	1		復習テスト(解答と解説)			
10	6月11日(火)	1		パーソナリティ			
11	6月18日(火)	1		パーソナリティ障害			
12	6月25日(火)	1		脳の構造, 機能			
13	7月 2日(火)	1		高次脳機能障害			
14	7月 9日(火)	1		発達障害			
15	7月16日(火)	1		まとめ			
履修者へのコメント ・人間の認知機能(見る, 聞く, 考える, 記憶するなど)の仕組みとともに、それが障害された場合にはどのような症状が現れるのかを学びます。							
テキスト ・はじめて出会う心理学 長谷川寿一ほか著(有斐閣アルマ)(2011)							
参考書 ・必要に応じ適宜紹介します。							

Ⅱ
専門基礎分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

人体の構造と機能及び心身の発達

13単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
解剖学		講義演習	通年 (前期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な骨・筋を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。						
	【行動目標】 ・人体の基本構造について理解できる。 ・骨の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の解剖学的名称を述べることができる。 ・筋の収縮による作用および起始・停止を説明できる。						
成績評価方法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月12日(金)	3	1	解剖学総論、解剖学とは	瀧本章平		
2		4	2				
3	4月19日(金)	4	1	細胞と組織			
4		5	2				
5	4月26日(金)	4	1	骨の基本構造			
6		5	2				
7	5月10日(金)	4	1	頭蓋の骨			
8		5	2				
9	5月17日(金)	4	1	脊柱の骨			
10		5	2				
11	5月24日(金)	4	1	胸郭の骨			
12		5	2				
13	5月31日(金)	4	1	上肢の骨			
14		5	2				
15	6月 7日(金)	4	1	下肢の骨			
16		5	2				
17	6月14日(金)	3	1	頭蓋・脊柱の関節			
18		4	2				
19	6月21日(金)	3	1	上肢の関節、下肢の関節			
20		4	2				
21	6月28日(金)	3	1	筋の基本構造			
22		4	2				
23	7月 5日(金)	3	1	頭頸部の筋			
24		4	2				
25	7月12日(金)	3	1	上肢の筋			
26		4	2				
27	7月19日(金)	3	1	下肢の筋			
28		4	2				
29	7月26日(金)	3	1	体幹の筋			
30		4	2				
履修者へのコメント ・解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。							
テキスト ・イラスト解剖学 第9版 (中外医学社) ・プロメテウス解剖学 コアアトラス 第3版 (医学書院)							
参考書							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員	
解剖学		講義演習	通年 (後期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平	
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「構造」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な神経・感覚器・内臓を中心として形態的特徴を習得することを目標とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経を中枢と末梢に分けることができる。 ・神経の走行を述べることができる。 ・感覚器系の名称を説明できる。 ・内臓（循環器・呼吸器・消化器など）を説明することができる。 							
	成績評価方法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者			
		A組	B組					
1 2	9月 6日(金)	1 2	3 4	神経細胞の分類	瀧本章平			
3 4	9月13日(金)	1 2	3 4	中枢神経と末梢神経の違い				
5 6	9月20日(金)	1 2	3 4	中枢神経①（脳）				
7 8	9月27日(金)	1 2	3 4	中枢神経①（脊髄）				
9 10	10月 4日(金)	1 2	3 4	末梢神経①（脳神経）				
11 12	10月11日(金)	1 2	3 4	末梢神経②（脊髄神経）				
13 14	10月18日(金)	1 2	3 4	末梢神経③（自律神経）				
15 16	10月25日(金)	1 2	3 4	感覚器系①（嗅覚器・味覚器）				
17 18	11月 1日(金)	1 2	3 4	感覚器系②（聴覚器・平衡覚）				
19 20	11月 8日(金)	1 2	3 4	感覚器系③（視覚器）				
21 22	11月15日(金)	1 2	3 4	内臓学①（循環器1）				
23 24	11月22日(金)	1 2	3 4	内臓学②（循環器2）				
25 26	11月29日(金)	1 2	3 4	内臓学③（呼吸器）				
27 28	12月 6日(金)	1 2	3 4	内臓学④（消化器）				
29 30	12月13日(金)	1 2	3 4	中心神経⑤（その他）				
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解剖学は医学の基礎となる科目です。解剖学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連していきます。多くの名称を覚え、理解しなくてはならないので教科書を中心にスケッチなどもしてより理解を深めていきましょう。 								
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラスト解剖学 第9版（中外医学社） ・プロメテウス解剖学 コアアトラス 第3版（医学書院） 								
<p>参考書</p>								

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員	
生理学		講義演習	通年 (前期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平	
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。</p> <p>【行動目標】 ・人体の機能について学ぶ。 ・血液の働きについて学び、体液と血液の違いについて学ぶ。 ・遺伝子とDNAの違いについて学ぶ。 ・内臓機能(循環器・呼吸器)を説明することができる。</p>							
	成績評価方法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者			
		A組	B組					
1 2	4月 8日(月)	1 2	3 4	人体の機能とは	瀧本章平			
3 4	4月15日(月)	1 2	3 4	細胞の働き				
5 6	4月22日(月)	1 2	3 4	遺伝子とDNA				
7 8	5月13日(月)	1 2	3 4	赤血球の働きとその破壊、血液型				
9 10	5月20日(月)	1 2	3 4	血小板の働き、白血球の種類				
11 12	5月27日(月)	1 2	3 4	生体防御機構と免疫				
13 14	6月 3日(月)	1 2	3 4	血液凝固反応、カスケード反応				
15 16	6月10日(月)	1 2	3 4	体液の循環、酸塩基平衡				
17 18	6月17日(月)	1 2	3 4	骨の生理				
19 20	6月24日(月)	1 2	3 4	骨格筋の生理				
21 22	7月 1日(月)	1 2	3 4	筋の収縮機構、 $\alpha - \gamma$ 連関				
23 24	7月 8日(月)	1 2	3 4	循環器、心臓				
25 26	7月22日(月)	1 2	3 4	刺激伝導系、血圧その他循環の生理				
27 28	7月23日(火)	3 4	1 2	呼吸器系				
29 30	7月29日(月)	1 2	3 4	脳波と睡眠				
履修者へのコメント								
<p>・生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。</p>								
テキスト								
・生理学テキスト 第8版(文光堂)								
参考書								

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員	
生理学		講義演習	通年 (後期)	PT1年	4単位	120時間	瀧本章平	
教 育 目 標	【一般目標】 医療従事者になるにあたって必要な人体の「機能」について学ぶ。同時に理学療法士に必要な生理学的作用を中心として機能的特徴を習得することを目標とする。							
	【行動目標】 ・各内臓機能について学ぶ。 ・消化器系の酵素や吸収方法について学ぶ。 ・内分泌系の作用のみならず過剰症や低下症について学ぶ。 ・神経の伝導について学ぶ。							
成績評価方法	定期試験及び提出物等で総合的に判断する。							
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者			
		A組	B組					
1 2	9月 2日(月)	1 2	3 4	消化器系の全容	瀧本章平			
3 4	9月 9日(月)	1 2	3 4	口～肛門までの消化・吸収				
5 6	9月30日(月)	1 2	3 4	肝臓、胆のう、膵臓の働き				
7 8	10月 7日(月)	1 2	3 4	泌尿器系、尿の生成				
9 10	10月21日(月)	1 2	3 4	レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系、その他				
11 12	10月28日(月)	1 2	3 4	内分泌①				
13 14	11月11日(月)	1 2	3 4	内分泌②				
15 16	11月18日(月)	1 2	3 4	内分泌③				
17 18	11月25日(月)	1 2	3 4	神経系、脱分極と再分極				
19 20	12月 2日(月)	1 2	3 4	静止膜電位と神経伝達物質				
21 22	12月 9日(月)	1 2	3 4	神経の伝導路				
23 24	12月16日(月)	1 2	3 4	自律神経系の作用				
25 26	12月17日(火)	1 2	3 4	特殊感覚①				
27 28	12月23日(月)	1 2	3 4	特殊感覚②				
29 30	12月24日(火)	1 2	3 4	生殖器系				
履修者へのコメント								
・生理学は医学の基礎となる科目です。生理学を理解することは医療従事者になるにあたって非常に重要なことであり、他の科目にも関連してきます。覚えることはもちろんですが、「理解する」ことが重要になってきます。わからないことは曖昧にせず、すぐに質問してください。								
テキスト								
・生理学テキスト 第8版(文光堂)								
参考書								

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生理学演習		演習	後期	PT1年	1単位	45時間	田崎雅和
教 育 目 標	<p>【一般目標】 生理学は生命現象とその背後にある法則や概念を物理的な手法で追究する学問である。本実習では、生体機能の機序を実験を通して理解する。</p> <p>【行動目標】 神経系機能、心・骨格筋機能、感覚器機能、血液機能、唾液・嚥下機能の基礎的な事項を理解し、説明できる。</p>						
	成績評価方法	レポート内容、実習態度、客観筆記試験にて総括的に評価する。					
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	8月26日(月)	1	3	ウシガエル坐骨神経-腓腹筋標本	田崎雅和		
2		2	4				
3	8月27日(火)	1	3	活動電位に関する実習			
4		2	4				
5	8月28日(水)	1	3	骨格筋の収縮力学に関する実習			
6		2	4				
7	8月29日(木)	1	3	心機能に関する実習			
8		2	4				
9	8月30日(金)	1	3	中枢神経機能に関する実習			
10		2	4				
11	9月 6日(金)	3	1	血圧の計測と血圧変動に関する実習			
12		4	2				
13	9月13日(金)	3	1	心電図に関する実習			
14		4	2				
15	9月20日(金)	3	1	体性感覚に関する実習			
16		4	2				
17	9月27日(金)	3	1	特殊感覚に関する実習			
18		4	2				
19	10月 4日(金)	3	1	唾液・嚥下機能に関する実習			
20		4	2				
21	10月11日(金)	3	1	血液に関する実習			
22		4	2				
23	10月18日(金)	3	1	実習のまとめ			
24		4	2				
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の医療人としての態度と技術を、実習を通して涵養してほしい。 ・実習を行う事で、基礎的な医療技術を学んでほしい。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・生理学講義で使用している教科書 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・生理学 真島英信 文光堂 ・ヒューマンボディ からだの不思議がわかる解剖生理学 エルゼビア・ジャパン 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学 I		講義演習	前期	PT1年	1単位	30時間	康德龍
教 育 目 標	<p>【一般目標】 医学、物理学、心理学、社会学等多くの学問分野から統合したものの上に成り立っていることを理解する。生体の解剖学、生理学や運動器の構造と機能の基礎知識を身に付ける。</p> <p>【行動目標】 ①骨格、筋、神経の機能や構造について概要を説明することができる。 ②運動器の構造と機能についての的確に説明することができる。 ③運動の中枢神経の機構である姿勢反射や姿勢保持について説明することができる。</p>						
	成績評価方法	筆記試験（定期試験，小テストを含む）および提出物等を総合的に判定する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月 8日(月)	4	2	オリエンテーション, 運動学意義	康德龍		
2	4月15日(月)	4	2	運動器の構造と機能			
3	4月22日(月)	4	2	運動の中枢神経系機構			
4	5月13日(月)	4	2	感覚器の構造と機能			
5	5月20日(月)	4	2	呼吸			
6	5月27日(月)	4	2	血液と循環①			
7	6月 3日(月)	4	2	血液と循環②			
8	6月10日(月)	4	2	体温調整			
9	6月17日(月)	4	2	腎臓と酸塩基平衡			
10	6月24日(月)	4	2	栄養とエネルギー代謝			
11	7月 1日(月)	4	2	栄養とエネルギー代謝②			
12	7月 8日(月)	4	2	運動学的分析（時間と空間、運動の観測）			
13	7月17日(水)	3	1	運動法則			
14	7月22日(月)	4	2	身体とテコ			
15	7月29日(月)	4	2	骨と関節の運動			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する分野の解剖学および生理学の予習をした上で授業に参加すること。 ・ 授業後は、授業の内容および関連する分野の復習を行うこと。 ・ 授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがある。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎運動学 第6版 補訂（医歯薬出版） 							
参考書							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅱ		講義演習	通年 (前期)	PT1年	2単位	60時間	渡邊司
教 育 目 標	<p>【一般目標】 運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、理学療法士の理論的基盤をなす重要な基礎科目である。本講義では、1. 身体運動に関する基礎的知識、2. 運動学に必要な力学、3. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係、4. 姿勢保持と歩行動作の特徴、5. 運動学習の理論について学習する。</p> <p>【行動目標】 ・筋骨格系の構造・機能・名称を理解する。 ・正常歩行と比較することで、異常歩行について考察することが出来る。</p>						
	<p>【評価対象】 ・前期・後期定期試験(筆記) ・提出課題</p> <p>【評価基準】 ・定期試験と提出課題を総合的に評価する。</p>						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月11日(木)	4	3	オリエンテーション、力学の基礎・用語説明	渡邊司		
2	4月18日(木)	4	3	生体力学の基礎			
3	4月25日(木)	2	1	生体力学の基礎②			
4		4	3	肩複合体の運動学①			
5	5月 9日(木)	4	3	肩複合体の運動学②			
6	5月16日(木)	4	3	運動学実習①肩甲上腕リズム			
7	5月23日(木)	4	3	肘・前腕複合体の運動学			
8	5月30日(木)	4	3	肘・前腕複合体の運動学②			
9	6月 6日(木)	1	2	手関節・手指の運動学①			
10	6月13日(木)	1	2	手関節・手指の運動学②			
11	6月20日(木)	1	2	股関節の運動学①			
12	6月27日(木)	1	2	股関節の運動学②			
13	7月 4日(木)	1	2	膝関節の運動学①			
14	7月11日(木)	1	2	膝関節の運動学②			
15	7月17日(水)	1	2	膝関節の運動学③			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・運動学とは、身体運動に関する諸問題に関して解剖学・生理学・力学・心理学的観点から問題を究明していく学問です。運動学を理解するために、解剖学・生理学の知識は常に復習するように取り組んでください。なるべく多く実習を取り入れながら進めていきます。 ・授業の進行具合により、授業内容を変更する場合は事前にお知らせします。 							
テキスト							
・基礎運動学 第6版 補訂 (医歯薬出版)							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・15レクチャーシリーズ理学療法学・作業療法学テキスト運動学/運動学実習 ・エッセンシャル・キネシオロジー ※その他の参考資料は授業内で紹介します。 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動学Ⅱ		講義演習	通年 (後期)	PT1年	2単位	60時間	渡邊司
教 育 目 標	<p>【一般目標】 運動学は身体運動の仕組みに関する学問であり、理学療法士の理論的基盤をなす重要な基礎科目である。本講義では、1. 身体運動に関する基礎的知識、2. 運動学に必要な力学、3. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係、4. 姿勢保持と歩行動作の特徴、5. 運動学習の理論について学習する。</p> <p>【行動目標】 ・筋骨格系の構造・機能・名称を理解する。 ・正常歩行と比較することで、異常歩行について考察することが出来る。</p>						
	<p>【評価対象】 ・前期・後期定期試験(筆記) ・提出課題</p> <p>【評価基準】 ・定期試験と提出課題を総合的に評価する。</p>						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 5日(木)	1	2	足関節の運動学①	渡邊司		
2	9月12日(木)	1	2	足関節の運動学②			
3	9月19日(木)	1	2	脊柱・体幹の運動学①			
4	9月26日(木)	1	2	脊柱・体幹の運動学②			
5	10月 3日(木)	1	2	呼吸運動、顔面と頭部の運動学			
6	10月10日(木)	1	2	立位姿勢			
7	10月17日(木)	1	2	運動学実習②アライメント評価			
8	10月24日(木)	1	2	起立・着座動作			
9	10月31日(木)	1	2	運動学実習③立ち上がり動作			
10	11月 7日(木)	1	2	正常歩行①歩行周期			
11	11月14日(木)	1	2	正常歩行②ロッカー機能について			
12	11月21日(木)	1	2	異常歩行			
13	11月28日(木)	1	2	階段昇降			
14	12月 5日(木)	1	2	運動学習			
15	12月12日(木)	1	2	バランス評価			
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動学とは、身体運動に関する諸問題に関して解剖学・生理学・力学・心理学的観点から問題を究明していく学問です。運動学を理解するために、解剖学・生理学の知識は常に復習するように取り組んでください。なるべく多く実習を取り入れながら進めていきます。 ・授業の進行具合により、授業内容を変更する場合は事前にお知らせします。 							
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎運動学 第6版 補訂 (医歯薬出版) 							
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15レクチャーシリーズ理学療法学・作業療法学テキスト運動学/運動学実習 ・エッセンシャル・キネシオロジー ※その他の参考資料は授業内で紹介します。 							

	Ⅱ 専門基礎分野
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論</p>	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
	14単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
病理学		講義	前期	PT1年	1単位	30時間	福井謙二
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <p>1. 全身の各臓器に共通な病変を分類し理解する。 2. 疾病の原因と,それによって生じる形態学的な変化を理解し,さらに,どのような機能的障害が引き起こされるかを理解する。 3. 各臓器・系統別に疾病の成り立ちについて理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <p>1. 疾病の原因について説明できる. 2. 先天異常, 奇形について説明できる. 3. 退行性病変について説明できる. 4. 進行性病変について説明できる. 5. 循環障害について説明できる. 6. 炎症について説明できる. 7. 免疫について説明できる. 8. 感染症について説明できる. 9. 腫瘍について説明できる. 10. 死因統計について説明できる. 11. 循環器系の疾患について説明できる. 12. 血液, 造血器系の疾患について説明できる. 13. 呼吸器系の疾患について説明できる. 14. 消化器系の疾患について説明できる. 15. 腎, 泌尿器系, 生殖器系, 乳腺の疾患について説明できる. 16. 神経系の疾患について説明できる. 17. 運動器系の疾患について説明できる.</p>						
	成 績 評 価 法	定期試験					
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	4月 9日(火)	2		病理学の意義. 病理診断の方法. 病因論. 病変の種類	福井謙二		
2	4月16日(火)	2		先天異常, 奇形			
3	4月23日(火)	2		退行性病変, 代謝障害			
4	4月30日(火)	2		進行性病変			
5	5月14日(火)	2		循環障害			
6	5月21日(火)	2		炎症, 免疫			
7	5月28日(火)	2		感染症			
8	6月 4日(火)	2		腫瘍, 死因統計			
9	6月11日(火)	2		循環器系の疾患			
10	6月18日(火)	2		血液, 造血器系の疾患			
11	6月25日(火)	2		呼吸器系の疾患			
12	7月 6日(土)	2		消化器系の疾患			
13	7月13日(土)	2		腎, 泌尿器, 生殖器系, 乳腺の疾患			
14	7月20日(土)	2		神経系の疾患			
15	7月27日(土)	2		運動器系の疾患			
履修者へのコメント ・病理学の理解を深めるためには, 解剖学や生理学などの基礎医学を十分理解することが重要である. ・テキストは授業で使用する.							
テキスト ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学 大橋健一, 谷澤 徹, 藤原正親, 柴原純二著 (医学書院)							
参考書							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床心理学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	松平友見
教 育 目 標	【一般目標】 1. 異常心理学の基本的知識を理解する。 2. 心理アセスメントの手技を理解する。 3. 心理療法の手技を理解する。						
	【行動目標】 1. 上記1.～3.について、他人にわかりやすく説明できるようになる。						
成績評価方法	定期試験により評価する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 3日(火)	1		臨床心理学概論	松平友見		
2	9月10日(火)	1		異常心理学			
3	9月17日(火)	1		心理アセスメント			
4	9月24日(火)	1		精神分析①			
5	10月 1日(火)	1		精神分析②			
6	10月 8日(火)	1		認知行動療法①			
7	10月15日(火)	1		認知行動療法②			
8	10月22日(火)	1		クライアント中心療法			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> 心理学（前期）で学んだ知識をもとに、こころの疾患や障害、認知機能／パーソナリティ機能の評価、治療手技について学びます。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> よくわかる臨床心理学 改訂新版 下山晴彦編（ミネルヴァ書房）（2010） 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> はじめて出会う心理学 長谷川寿一ほか著（有斐閣アルマ）（2011） 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内科学		講義演習	後期	PT1年	1単位	30時間	板倉光夫
教 育 目 標	【一般目標】	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <h2 style="margin: 0;">後期配布します</h2> </div>					
	【行動目標】						
成績評価方法							
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 5日(木)	4			板倉光夫		
2	9月12日(木)	4					
3	9月19日(木)	4					
4	9月26日(木)	4					
5	10月 3日(木)	4					
6	10月10日(木)	4					
7	10月17日(木)	4					
8	10月24日(木)	4					
9	10月31日(木)	4					
10	11月 7日(木)	4					
11	11月14日(木)	4					
12	11月21日(木)	4					
13	11月28日(木)	4					
14	12月 5日(木)	4					
15	12月12日(木)	4					
履修者へのコメント							
.							
テキスト							
.							
参考書							
.							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
整形外科学		講義演習	後期	PT1年	1単位	30時間	山下晶子
教 育 目 標	【一般目標】 人体の運動器官にかかわる疾患の診断と治療, リハビリテーションについて学習する。						
	【行動目標】 総論として骨・関節, 神経・筋肉の機能解剖、病態および運動評価について学び, 各論として疾病疾患（炎症、内分泌性、退行性、先天性、循環器、神経・筋肉、脊椎）と外傷性疾患（骨折、脊髄損傷、外傷性疾患、スポーツ障害、熱傷、切断および離断）について学ぶ。						
成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に評価する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 4日(水)	1		整形外科基礎知識 1 : 骨・関節	山下晶子		
2		2		整形外科基礎知識 2 : 神経、骨・関節・神経の病態生理			
3	9月11日(水)	1		運動器の評価			
4		2		運動器の検査法			
5	9月18日(水)	1		一般的整形外科的治療法：保存療法/手術療法/理学・作業療法			
6		2		炎症性疾患：感染性・非感染性疾患・膠原病			
7	9月25日(水)	1		代謝・内分泌性疾患、退行性疾患			
8		2		先天性骨・関節疾患、循環障害と壊死性疾患			
9	10月 2日(水)	1		骨・軟部腫瘍			
10		2		神経・筋疾患			
11	10月 9日(水)	1		脊椎の病態			
12		2		骨折			
13	10月16日(水)	1		脊髄損傷、関節における外傷性疾患			
14		2		末梢性神経における外傷性疾患			
15	10月23日(水)	1		スポーツ障害			
16		2		熱傷・凍傷、切断および離断			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・復習を行い、毎回の事項を理解してください。不十分な点は教科書を参考に質問してください。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・標準整形外科学 第13版（医学書院） 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で資料を配布します。 ・解剖学の教科書を参考にしてください。 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
神経内科学		講義演習	後期	PT1年	1単位	30時間	小野内健司
教 育 目 標	<p>リハビリテーションの対象として神経疾患の頻度は最も高く、リハビリテーションスタッフやそれを目指す学生にとって重要な分野である。神経内科学の講義では、神経解剖・神経生理などの基礎医学を学習したあと、それに基づいた神経症候学を学習する。その後、神経内科学各論では、神経内科のほか脳外科・小児神経科などであつかう神経疾患全般について学習する。</p>						
	<p>成績評価方法</p> <p>定期試験、提出物で総合的に評価する。</p>						
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 5日(木)	3		神経内科学総論 解剖学	小野内健司		
2	9月12日(木)	3		神経内科学総論 生理学・薬理学			
3	9月19日(木)	3		神経内科学総論 主要神経症候①			
4	9月26日(木)	3		神経内科学総論 主要神経症候②			
5	10月 3日(木)	3		神経症候学総論 臨床検査・評価法			
6	10月10日(木)	3		神経内科学各論 脳血管障害			
7	10月17日(木)	3		神経内科学各論 変性疾患①			
8	10月24日(木)	3		神経内科学各論 変性疾患②			
9	10月31日(木)	3		神経内科学各論 脱髄性疾患・末梢神経障害			
10	11月 7日(木)	3		神経内科学各論 筋疾患・神経筋接合部疾患			
11	11月14日(木)	3		神経内科学各論 高次脳機能障害・失語症			
12	11月21日(木)	3		神経内科学各論 認知症・腫瘍			
13	11月28日(木)	3		神経内科学各論 脊髄疾患・感染症・外傷			
14	12月 5日(木)	3		神経内科学各論 機能的疾患・自律神経障害・代謝性疾患			
15	12月12日(木)	3		先天性疾患・中毒			
<p>履修者へのコメント</p> <p>・解剖学・生理学・病理学など基礎医学の習得が不十分であると神経内科学の履修に支障を来すため、これら前期科目の復習を各自おこなってから講義にのぞむこと。履修範囲が多いため、授業中に説明できなかった項目については各自でテキストに目を通すこと。</p>							
<p>テキスト</p> <p>・病気がみえる〈vol.7〉第2版「脳・神経」, 医療情報科学研究所(編集)</p>							
<p>参考書</p> <p>・神経内科学テキスト 改訂第4版 江藤文夫・飯島節 編集(南江堂)</p> <p>・ベッドサイドの神経の診かた〈改訂18版〉 田崎義昭ほか著(南山堂)</p>							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
精神医学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	福田慶一
教 育 目 標	<p>【一般目標】 国家試験合格を念頭に置いて、精神医学全般について基礎事項を学び、各精神疾患を理解・考察する。</p> <p>【行動目標】 精神疾患を科学的・医学的視点から理解することで、ともすれば陥ってしまうこともある偏見を排除し、公正な視点、及び態度を以て精神疾患罹患者に相對することを旨す。</p>						
	<p>成績評価方法</p> <p>・定期試験の成績にて判定する。</p>						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 4日(水)	3		精神医学紹介／気分障害	福田慶一		
2		4		心身症／統合失調症			
3	9月11日(水)	3		老年期精神障害／摂食障害			
4		4		神経症／睡眠障害			
5	9月18日(水)	3		てんかん／人格障害			
6		4		薬物・アルコール依存症			
7	9月25日(水)	3		児童期・青年期の精神障害			
8		4		試験に向けて総復習			
<p>履修者へのコメント</p> <p>・講義の中で動画も用いながら、なるべく実際の側面から精神疾患を一緒に見ていきたいと思っています。授業でふれた事はもちろん、授業内容以外でも、国家試験の勉強で疑問点がありましたら、遠慮なく質問して下さい。授業中の質問も、全員が聴けるので大歓迎です。</p>							
<p>テキスト</p> <p>・標準理学療法学・作業療法学 精神医学 専門基礎分野 第4版 (医学書院)</p>							
<p>参考書</p> <p>・100% 精神科 医学教育出版社 ・100問ノススメ 精神科 医学教育出版社</p> <p>上記2冊は、医師国家試験用の参考書&問題集です。精神医学における重要ポイントがコンパクトにまとめられているので推薦します。</p>							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
小児科学		講義	後期	PT1年	1単位	15時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 小児の障害を引き起こす主な疾患の原因、病態生理、徴候、診断と治療を学ぶ。						
	【行動目標】 ①疫学、予後について説明できる。 ②病因、症候について説明できる。 ③検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療について説明できる。 ④小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる。						
成績評価方法	本試験（80％）、4回の小テスト（20％）で判定する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	10月25日(金)	3	1	小児科学概論、新生児・未熟児疾患	山崎康幸		
2	11月 1日(金)	3	1	小テスト①、先天異常と遺伝病			
3	11月 8日(金)	3	1	小テスト②、神経・筋・骨系疾患①			
4	11月15日(金)	3	1	神経・筋・骨系疾患②			
5	11月22日(金)	3	1	小テスト③、循環器疾患、呼吸器疾患			
6	11月29日(金)	3	1	感染症、消化器疾患、内分泌・代謝疾患			
7	12月 6日(金)	3	1	小テスト④、血液疾患、免疫、腎・泌尿器疾患			
8	12月13日(金)	3	1	腫瘍疾患、重症心身障害児、その他疾患			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・小児科学は内科学の勉強にもつながります。しっかり知識を深めていきましょう。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版（医学書院） 							
参考書							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床医学と画像診断		講義演習	後期	PT1年	1単位	30時間	葦沢龍人
教 育 目 標	【一般目標】	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <h2 style="margin: 0;">後期配布します</h2> </div>					
	【行動目標】						
成績評価方法							
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 7日(土)	4			葦沢龍人		
2	9月14日(土)	4					
3	9月21日(土)	4					
4	9月28日(土)	4					
5	10月 5日(土)	4					
6	10月12日(土)	4					
7	10月19日(土)	4					
8	10月26日(土)	4					
9	11月 2日(土)	4					
10	11月 9日(土)	4					
11	11月16日(土)	4					
12	11月30日(土)	4					
13	12月 7日(土)	4					
14	12月14日(土)	4					
15	調整中						
履修者へのコメント							
.							
テキスト							
.							
参考書							
.							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション医学		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	宮下雅史
教 育 目 標	【一般目標】 さまざまな病態、疾患、外傷などにより生じた機能障害を回復し、残存した障害を克服しながら人々の活動を育む医学分野の基本を知る。						
	【行動目標】 1、リハビリテーション医学の現状を知る。 2、チーム医療の中での理学療法士の役割を知る。 3、理学療法士として医学的側面から治療・支援できることを知る。						
成 績 評 価 方 法	最終試験で総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	6月12日(水)	3	1	リハビリテーション医学の概要	宮下雅史		
2		4	2	障害の評価			
3	6月26日(水)	3	1	脳血管障害の評価と治療			
4		4	2	脊髄損傷の評価と治療			
5	7月 3日(水)	3	1	神経変性疾患の評価と治療			
6		4	2	整形外科疾患の評価と治療			
7	7月10日(水)	3	1	小児疾患の評価と治療			
8		4	2	内部疾患の評価と治療			
履修者へのコメント ・楽しい授業にしましょう							
テキスト ・特になし							
参考書 ・リハビリテーション医学テキスト 第4版(南江堂)							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と薬理		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	中村香織
教 育 目 標	【一般目標】 リハビリテーションに関連する疾患における薬物・薬理の基礎的な知識を身に付ける。						
	【行動目標】 ・薬物動態、薬理に関する基礎的な知識について説明することができる。 ・各疾患における代表薬物、作用機序等について説明することができる。						
成績評価方法	定期試験で判定する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	6月20日(木)	4		薬物動態	中村香織		
2	6月27日(木)	4		薬物の作用機序			
3	7月 4日(木)	4		炎症、アレルギーに関する薬理			
4	7月11日(木)	4		感染症に関する薬理			
5	7月18日(木)	3		中枢神経系に関する薬理			
6		4		末梢神経系に関する薬理			
7	7月25日(木)	3		循環器疾患の薬理			
8		4		精神疾患の薬理			
履修者へのコメント ・パワーポイント資料で講義を進める。 ・授業の理解度・進行状況により、授業内容の変更する場合もあるため、注意すること。							
テキスト ・シンプル薬理学 改訂第5版 (南江堂)							
参考書							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
予防医学と公衆衛生		講義	前期	PT1年	1単位	30時間	仲 眞美子
教 育 目 標	【一般目標】 疾病予防と健康増進の重要性を理解し、専門職としての自分の役割を見いだせる						
	【行動目標】 ・ 疾病予防、健康増進の概念、健康づくり施策、健康サービスを説明できる ・ 公衆衛生分野にをける自分の役割をを説明できる ・ ライフステージに合わせた健康問題の対処法を考えられる						
成績評価方法	定期試験、提出物により総合的に判定する						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月10日(水)	5		総論 ガイダンス、公衆衛生学入門、薬物乱用	仲 眞美子		
2	4月17日(水)	5		総論 ライフスタイルと健康サービス			
3	4月24日(水)	5		総論 生活習慣病予防			
4	5月 8日(水)	5		総論 疫学と衛生統計			
5	5月15日(水)	5		総論 ライフサイクルと健康サービス			
6	5月22日(水)	5		総論 生活環境と疾病コントロール			
7	5月29日(水)	5		総論 チームで取り組むヘルスプロモーション			
8	6月 5日(水)	5		総論 公衆衛生とリハビリテーション			
9	6月12日(水)	5		各論 食習慣、食品保健			
10	6月19日(水)	5		各論 運動、休養、メンタルヘルス、健康リスク行動			
11	6月26日(水)	5		各論 保健統計資料の活用			
12	7月 3日(水)	5		各論 母子保健、学校保健			
13	7月10日(水)	5		各論 産業保健、成人保健			
14	7月17日(水)	5		各論 高齢者保健、介護予防			
15	7月24日(水)	5		各論 QOLを高めるリハビリテーション			
履修者へのコメント ・ テキスト必携 ・ 理解を深めるために、ノートを活用して予習・復習をする ・ 授業中のメモとディスカッションは積極的に							
テキスト ・ 医療職のための公衆衛生・社会医学(テコム) 著 : 長谷川友紀、長谷川敏彦、松本邦愛							
参考書 ・ 国民衛生の動向(厚生労働統計協会) 編: 厚生労働統計協会							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
救命救急の基礎		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	小野内健司
教 育 目 標	【一般目標】 ・救急医療の特徴を理解できる。 ・救急患者の特徴を理解し、救急看護に求められる予測性をもった病態アセスメントができる。 ・災害医療の特徴を理解し、自己の役割やすべきことを明確にできる。						
	【行動目標】 1) 救急・災害医療体制の基本骨格を学習する。 2) 救急医療システムの全体像を理解し、特にプレホスピタルの重要性を説明できる。 3) 主要な疾患の病態を知る。 4) 多様な救急疾患の重症度と緊急度を把握できる。 5) 救急疾患の診断と治療法について述べることができる。特に心肺脳蘇生について。						
成績評価方法	・定期試験・レポートなどで総合的に判定する。 ・院外で開催されている1次救命処置講習（BLS講習・普通救命講習・上級救命講習など）への出席を強く推奨する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	6月 6日(木)	3		救命救急1 救急システム・救急外来で扱う疾患	小野内健司		
2	6月20日(木)	3		救命救急2 死に至るメカニズム			
3	6月27日(木)	3		救命救急3 1次救命処置(BLS)その1			
4	7月 4日(木)	3		救命救急3 1次救命処置(BLS)その2			
5	7月11日(木)	3		救命救急5 内因性救急疾患			
6	7月18日(木)	2		救命救急6 外因性救急疾患			
7	7月25日(木)	1		救命救急7 災害医療とトリアージ			
8		2		救命救急8 熱傷のリハビリテーション・てんかんと意識消失			
履修者へのコメント ・各自、1次救命処置講習（BLS講習・普通救命講習など）への参加を強く推奨する。 参加方法については講義中に説明する。							
テキスト ・指定テキストはない。各講義で資料プリントを配布する。							
参考書 ・写真と動画でわかる「一次救命処置」改訂3版（発売元：学研プラス）監修：小林正直・石見 拓							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
人体と栄養		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	上木明子
教 育 目 標	<p>【一般目標】 『人体と栄養』では「栄養の意義」・「栄養素の働き」・「疾患別栄養療法」「ライフステージ別の栄養」について学ぶ。コメディカルとしての知識のみならず、個々の人として望ましい食生活のために何をどれだけ摂取したらいいか、そして健康の保持・増進や疾病の予防における栄養の役割を正しく理解し、健康な生涯を確保するために適切な食事とはどうあるべきなのかを中心に学習する。</p> <p>【行動目標】 自身の健康のために望ましい食生活を実践できるようになる。また将来医療現場で患者の栄養状態、リハビリにおける栄養の重要性を理解した医療行為が行なえるよう、知識を深める。</p>						
	成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に評価する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	5月 9日(木)	1		栄養とは	上木明子		
2		2		活動と栄養			
3	5月16日(木)	1		栄養素の基礎知識①			
4		2		栄養素の基礎知識②			
5	5月23日(木)	1		代謝の仕組み			
6		2		症状別栄養			
7	5月30日(木)	1		ライフステージ別栄養			
8		2		運動と栄養			
履修者へのコメント							
テキスト ・栄養の基本がわかる図解事典 (成美堂出版)							
参考書 ・							

	Ⅱ 専門基礎分野
<p>I. 基礎分野</p> <p> i) 科学的思考の基盤 人間と生活</p> <p>II. 専門基礎分野</p> <p> i) 人体の構造と機能及び心身の発達</p> <p> ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p> iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野</p> <p> i) 基礎理学療法学</p> <p> ii) 理学療法評価学</p> <p> iii) 理学療法管理学</p> <p> iv) 理学療法治療学</p> <p> v) 地域理学療法学</p> <p> vi) 臨床実習</p> <p> vii) 理学療法学特論</p>	保健医療福祉とリハビリテーションの理念
	4単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
リハビリテーション概論		講義	前期	PT1年	1単位	30時間	星野光宏
教 育 目 標	<p>【一般目標】 リハビリテーション (rehabilitation) を正しく理解する。正しい知識をもって、リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの概念・歴史、関連専門職の役割・連携、クライアント中心の医療について説明できる。 2. リハビリテーションにおける専門職の役割、現状、今後の課題について説明できる。 3. 理学療法(士)とは何か、理学療法の具体的内容や業務範囲について説明できる。 4. 専門職としての理学療法士に関する臨床的思考過程、理学療法実践過程について説明できる。 5. 理学療法士の教育体系について説明できる。 6. 理学療法士に必要な管理及び運営の方法について説明できる。 						
	成 績 評 価 法	定期試験および提出物・発表などを総合的に判断する。					
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	4月 8日(月)	3	1	リハビリテーションとは？	星野光宏		
2	4月15日(月)	3	1	リハビリテーションの概念・理念・定義			
3	4月22日(月)	3	1	健康・疾病・障害の概念と分類			
4	5月13日(月)	3	1	障害論			
5	5月20日(月)	3	1	廃用症候群とは			
6	5月27日(月)	3	1	リハビリテーションの過程・諸段階			
7	6月 3日(月)	3	1	チームアプローチ, ADL・QOLの概念			
8	6月10日(月)	3	1	理学療法の歴史・定義			
9	6月17日(月)	3	1	理学療法の役割・過程			
10	6月24日(月)	3	1	理学療法士に求められる使命と倫理			
11	7月 1日(月)	3	1	理学療法士に求められる資質1			
12	7月 8日(月)	3	1	理学療法士に求められる資質2			
13	7月17日(水)	2	3	理学療法士の職能			
14	7月22日(月)	3	1	理学療法士に関連する法律			
15	7月29日(月)	3	1	まとめ			
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け身の学習ではなく、自ら学ぶことに主眼が置かれているので、積極的に授業へ参加すること。 							
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト 改訂第3版 (南江堂) 							
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・随時紹介する 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
職業関連リハビリテーション学		講義	前期	PT1年	1単位	15時間	土居義典
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法士として職業リハビリテーションへの理解を深める。						
	【行動目標】 地域における職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる。						
成績評価方法	定期試験、提出物で総合的に判定する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月11日(木)	3	4	地域における職業リハビリテーションとは	土居義典		
2	4月18日(木)	3	4	職業リハビリテーションにおける理学療法士の役割とは			
3	4月25日(木)	3	4	障害者就労支援とは			
4	5月 9日(木)	3	4	共生社会に向けた就労支援			
5	5月16日(木)	3	4	障害者就労支援の共通目標			
6	5月23日(木)	3	4	障害者就労支援のポイント			
7	5月30日(木)	3	4	役割分担と連携			
8	6月13日(木)	3	4	障害特性を踏まえた支援			
履修者へのコメント							
.							
テキスト							
.							
参考書							
.							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
多職種連携演習		演習	後期	PT1年	1単位	45時間	
教 育 目 標	【一般目標】	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <h2 style="margin: 0;">後期配布します</h2> </div>					
	【行動目標】						
成績評価方法							
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
履修者へのコメント							
・							
テキスト							
・							
参考書							
・							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

基礎理学療法学

6単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
基礎理学療法学		講義	後期	PT1年	2単位	30時間	山川貴久
教 育 目 標	<p>【一般目標】 理学療法を科学的に理解するとともに、臨床において効果的な理学療法を実践する上で必要となる理学療法の基本的事項について学ぶ。</p> <p>【行動目標】 理学療法に必要な基本的事項を理解し、説明することができる。</p>						
	成績評価方法	筆記試験、小テストを実施し総合的に判断する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 3日(火)	3	4	筋力低下について	山川貴久		
2	9月10日(火)	3	4	関節拘縮について			
3	9月17日(火)	3	4	疼痛について			
4	9月24日(火)	3	4	骨損傷(骨折、疲労骨折など)について			
5	10月 1日(火)	3	4	褥瘡・浮腫について			
6	10月 8日(火)	3	4	運動麻痺について			
7	10月15日(火)	3	4	筋緊張異常について			
8	10月22日(火)	3	4	高次脳機能障害について			
9	10月29日(火)	3	4	感覚異常について			
10	11月 5日(火)	3	4	平衡機能・姿勢制御障害について			
11	11月12日(火)	3	4	協調運動障害について			
12	11月19日(火)	3	4	認知機能低下について			
13	11月26日(火)	3	4	呼吸機能障害について			
14	12月 3日(火)	3	4	心機能障害について			
15	12月10日(火)	3	4	まとめ			
履修者へのコメント ・解剖学、生理学、運動学を復習して、授業に参加すること。 ・定期的に小テストを実施する(内容は前回授業の復習が中心となる)。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがある。							
テキスト ・理学療法ハンドブック 第1巻 理学療法の基礎と評価 改定第4版(協同医書出版社)							
参考書 ・必要に応じて、講義内で紹介する。							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動療法学総論 I		講義	後期	PT1年	1単位	30時間	堀内賢
教 育 目 標	<p>【一般目標】 理学療法の中核をなす運動療法を理解するため、筋、骨格構造、神経系から運動学などの基礎を理解する。各種障害に対する運動療法の理論と実践に関して学び、運動療法の基礎知識を身に付ける。</p> <p>【行動目標】 ①各運動療法の目的と効果を説明する。 ②各種障害に対する適切な運動療法を選択し、実施できる。 ③運動療法を実施するにあたり、そのリスク管理が出来る。</p>						
	成績評価方法	筆記試験および実技試験（定期試験），提出物等を総合的に判断する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 3日(火)	4	2	オリエンテーション・運動療法の歴史	堀内賢		
2	9月10日(火)	4	2	関節可動域運動に必要な解剖学・運動学			
3	9月17日(火)	4	2	関節可動域の制限因子			
4	9月24日(火)	4	2	関節可動域訓練			
5	10月 1日(火)	4	2	ストレッチングに必要な解剖学・生理学			
6	10月 8日(火)	4	2	ストレッチング，マッサージ			
7	10月15日(火)	4	2	筋力・筋持久力に関わる解剖学・生理学			
8	10月22日(火)	4	2	筋力・筋持久力に関わる運動学			
9	10月29日(火)	4	2	筋力・筋持久力の改善			
10	11月 5日(火)	4	2	痛みに関わる生理学			
11	11月12日(火)	4	2	痛みの改善			
12	11月19日(火)	4	2	姿勢保持に関わる解剖学・生理学			
13	11月26日(火)	4	2	姿勢保持に関わる運動学			
14	12月 3日(火)	4	2	姿勢保持の改善			
15	12月10日(火)	4	2	運動学習・まとめ			
履修者へのコメント ・関連する分野の解剖学および生理学の予習をした上で授業に参加すること。 ・授業後は、授業の内容および関連する分野の復習を行うこと。 ・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがあります。							
テキスト							
参考書							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) **理学療法評価学**
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

理学療法評価学

7単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学 I		講義	通年 (前期)	PT1年	2単位	60時間	星野光宏
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定項目について、その目的・意義・内容・手技を理解し、対象者個々人が持つ障害を理解するために必要な知識の習得を目的とする。						
	【行動目標】 1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。 4. 障害が出現するメカニズムについて説明できる。						
成績評価方法	筆記試験，実技試験，提出物で総合的に判定する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	6月14日(金)	1	3	オリエンテーション，総論1	星野光宏		
2		2	4	総論2			
3	6月21日(金)	1	3	総論3			
4		2	4	総論4			
5	6月28日(金)	1	3	総論5			
6		2	4	総論6			
7	7月 3日(水)	1	3	四肢長周径1			
8		2	4	四肢長周径2			
9	7月 5日(金)	1	3	四肢長周径3			
10		2	4	四肢長周径4			
11	7月10日(水)	1	3	四肢長周径5			
12		2	4	四肢長周径6			
13	7月12日(金)	1	3	関節可動域検査1			
14		2	4	関節可動域検査2			
15	7月19日(金)	1	3	関節可動域検査3			
16		2	4	関節可動域検査4			
17	7月23日(火)	1	3	関節可動域検査5			
18		2	4	関節可動域検査6			
19	7月24日(水)	3	1	関節可動域検査7			
20		4	2	関節可動域検査8			
	7月30日(火)	1・2・3・4		実技試験 四肢長周径			
履修者へのコメント ・評価学の習得には疾病・解剖学・生理学・運動学の知識が必須であるため、復習を怠らないこと。 ・理学療法士にとって最も基本的で実施頻度の高いものとなるため、授業外でも修練に励むこと。							
テキスト ・理学療法評価学 改訂第6版 (金原出版)							
参考書 ・理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 ・随時紹介する							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学 I		講義	通年 (後期)	PT1年	2単位	60時間	星野光宏
教 育 目 標	<p>【一般目標】 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定項目について、その目的・意義・内容・手技を理解し、対象者個々人が持つ障害を理解するために必要な知識の習得を目的とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。 4. 障害が出現するメカニズムについて説明できる。 						
	成績評価方法	筆記試験，実技試験，提出物で総合的に判定する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 3日(火)	2	3	関節可動域検査12	星野光宏		
2	9月10日(火)	2	3	関節可動域検査13			
3	9月17日(火)	2	3	関節可動域検査14			
4	9月24日(火)	2	3	感覚検査 1			
5	10月 1日(火)	2	3	感覚検査 2			
6	10月 8日(火)	2	3	感覚検査 3			
7	10月15日(火)	2	3	感覚検査 4			
8	10月22日(火)	2	3	感覚検査 5			
9	10月29日(火)	2	3	筋緊張検査 1			
10	11月 5日(火)	2	3	筋緊張検査 2			
11	11月12日(火)	2	3	筋緊張検査 3			
12	11月19日(火)	2	3	筋緊張検査 4			
13	11月26日(火)	2	3	筋緊張検査 5			
14	12月 3日(火)	2	3	まとめ 1			
15	12月10日(火)	2	3	まとめ 2			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・評価学の習得には疾病.解剖学.生理学.運動学の知識が必須であるため、復習を怠らないこと。 ・理学療法士にとって最も基本的で実施頻度の高いものとなるため、授業外でも修練に励むこと。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学 改訂第6版 (金原出版) 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 ・随時紹介する 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学Ⅱ		講義	後期	PT1年	2単位	60時間	康德龍
教 育 目 標	【一般目標】 ①正確な徒手筋力検査法を実施し、検査結果から得られる情報を正しく捉えることができる。 ②基礎知識(筋の起始停止、支配神経等)と検査法の意義を積極的に学習し理解する。 【行動目標】 ①筋力評価の意義、目的、代表的な測定方法を説明する。 ②正確な徒手筋力検査方法(MMT)を習得するべく、積極的な姿勢で参加する。 ③徒手筋力検査法(MMT)に必要な主動作筋を触診する。 ④徒手筋力検査法(MMT)の各検査を正確に測定する。						
	成績評価方法	定期試験(提出物、小テスト)により総合的に判定する。 ※実技試験50% 筆記試験50% 提出状況、小テスト含む					
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 2日(月)	3	1	オリエンテーション/総論①(筋力について)	康德龍		
2		4	2				
3	9月 9日(月)	3	1	総論②・復習(筋の起始停止・支配神経)			
4		4	2				
5	9月30日(月)	3	1	上肢 肩甲骨			
6		4	2				
7	10月 7日(月)	3	1	上肢 肩甲骨			
8		4	2			上肢 肩関節	
9	10月21日(月)	3	1	上肢 肩関節			
10		4	2				
11	10月28日(月)	3	1	上肢 肘関節			
12		4	2				
13	11月11日(月)	3	1	上肢 まとめ			
14		4	2			手関節	
15	11月18日(月)	3	1	手関節とまとめ			
16		4	2			下肢 股関節	
17	11月25日(月)	3	1	下肢 股関節			
18		4	2				
19	12月 2日(月)	3	1	下肢 股関節・膝関節			
20		4	2			膝関節 足関節	
21	12月 9日(月)	3	1	下肢 まとめ			
22		4	2			体幹	
23	12月16日(月)	3	1	体幹			
24		4	2				
25	12月17日(火)	3	1	体幹 まとめ			
26		4	2			頸部・頭部①	
27	12月23日(月)	3	1	頸部・頭部②			
28		4	2			頸部・頭部まとめ	
29	12月24日(火)	3	1	脳神経支配筋(顔面含む)			
30		4	2				
履修者へのコメント ・実技の際は規定の服装で望むこと ピアス、アクセサリは不可 できれば事前に主動作筋について予習をし、定期的に検査法の復習を行うことが望ましい。							
テキスト ・新・徒手筋力検査法 原著 第9版 (協同医書出版社)							
参考書							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) **理学療法治療学**
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

理学療法治療学

20単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合理学療法学 I		講義	後期	PT1年	1単位	30時間	山川貴久
教 育 目 標	【一般目標】 身体の機能解剖学的知識を習得し、臨床応用への準備を行う。						
	【行動目標】 ①理学療法に必要な触診を正確に実践できる。 ②身体の動きを理解し、専門用語を用いて説明することができる。						
成績評価方法	筆記試験、実技試験を実施し総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 5日(木)	2	1	下肢の触診(骨、筋肉、靭帯)①	山川貴久		
2	9月12日(木)	2	1	下肢の触診(骨、筋肉、靭帯)②			
3	9月19日(木)	2	1	下肢の触診(骨、筋肉、靭帯)③			
4	9月26日(木)	2	1	下肢の触診(骨、筋肉、靭帯)④			
5	10月 3日(木)	2	1	下肢の触診(骨、筋肉、靭帯)⑤			
6	10月10日(木)	2	1	体幹の触診(骨、筋肉、靭帯)①			
7	10月17日(木)	2	1	体幹の触診(骨、筋肉、靭帯)②			
8	10月24日(木)	2	1	調整日			
9	10月31日(木)	2	1	上肢の触診(骨、筋肉、靭帯)①			
10	11月 7日(木)	2	1	上肢の触診(骨、筋肉、靭帯)②			
11	11月14日(木)	2	1	上肢の触診(骨、筋肉、靭帯)③			
12	11月21日(木)	2	1	上肢の触診(骨、筋肉、靭帯)④			
13	11月28日(木)	2	1	上肢の触診(骨、筋肉、靭帯)⑤			
14	12月 5日(木)	2	1	血管、神経等の触診			
15	12月12日(木)	2	1	まとめ			
履修者へのコメント ・解剖学、運動学を復習して、授業に参加すること。 ・授業の進行度合いによって、講義内容及び順序を変更することがある。							
テキスト ・図解 四肢と脊椎の診かた (医歯薬出版株式会社)							
参考書 ・運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版 (メジカルビュー社) ・運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版 (メジカルビュー社)							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

地域理学療法学

3単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域理学療法学		講義	後期	PT1年	1単位	30時間	川崎初美
教 育 目 標	【一般目標】 地域リハビリテーションを実践するために、地域リハビリテーションの定義・目標・地域に果たす役割を理解し、リハビリテーションの各期（急性期～終末期まで）における関わり方を理解する						
	【行動目標】 ・地域リハビリテーションに関する事柄を、説明することが出来る（地域包括ケアシステム、ICF、生活リハビリテーション、訪問リハビリテーション、住宅改修と福祉用具、サービス担当者会議、地域ケア会議） ・グループワークをおこなう中で、自分の考えをまとめ、意見を述べる事が出来る（カンファレンス実践、介護予防実践、終末期リハビリテーション、訪問リハ危険予知訓練、地域マップ作り）						
成績評価方法	定期試験、提出物で総合的に判定する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	10月30日(水)	1	3	自己紹介 介護保険のはなし	川崎初美		
2		2	4	地域包括ケアシステム（理学療法士に期待されていること）			
3	11月 6日(水)	1	3	終末期リハビリテーションとは 災害時リハビリテーション			
4		2	4	活動と参加（ICFを意識したゴール設定を考える）			
5	11月13日(水)	1	3	訪問リハビリテーションの実際			
6		2	4	訪問リハビリテーションの危険予知訓練			
7	11月20日(水)	1	3	福祉用具についての理解			
8		2	4	住宅改修についての理解			
9	11月27日(水)	1	3	介護予防についての理解			
10		2	4	介護予防についての実践			
11	12月 4日(水)	1	3	生活リハビリの理解			
12		2	4	福祉レクリエーションと高齢者や障がい者の心理			
13	12月11日(水)	1	3	コミュニケーション技術について			
14		2	4	ケアカンファレンス実践			
15	12月18日(水)	1	3	地域リハビリテーションの実際 互助活動の作り方実践報告			
16		2	4	地域マップ作り 試験に向けての全体復習			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでは、積極的に意見交換し、クラスの中での学びを高めていくこと ・理学療法士として働くことへの心構えができるように、実践者向けの内容としていく 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・プリントを配布する 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関のホームページや各種団体の情報などを、各授業時間に紹介する 							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) **臨床実習**
- vii) 理学療法学特論

臨床実習

24単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
見学実習		実習	後期	PT1年	1単位	45時間	康德龍
教 育 目 標	<p>【一般目標】 入学後早期に保健・医療・福祉の現場にいる理学療法士の業務を体験し、理学療法士となる覚悟と関心を早期に高め、その後の学習へ動機づけ、能動的、問題解決的な自己学習態度を身につけさせることを目的としています。また見学を通し、医療・保健・福祉に関わる理学療法士としての態度を身につける礎とする。</p> <p>【行動目標】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ④学生としての必要な記録と報告ができる。</p>						
	成績評価方法	別紙（見学実習の手引き）参照のこと					
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者		
		A組	B組				
	1月20日(月)	1・2		見学実習 ガイダンス	康德龍		
	2020年 1月27日(月) ～ 2020年 2月 1日(土)			見学実習	全教員		
	2月 3日(月)	1		見学実習 報告会・検討会	康德龍		
履修者へのコメント ・はじめての臨牀実習であるため、臨牀の場面で習得した知識、技術がどのように応用、活かされているかを少しでも多く体験、経験できるように臨むこと。 ・実習に対応できる体調管理を行うこと。 ・皆勤で臨めるように準備すること。（自宅では予習・復習を徹底すること）							
テキスト ・指定なし							
参考書 ・指定なし							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

理学療法学特論

3単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法学特論 I		演習	通年	PT1年	1単位	45時間	康徳龍
教 育 目 標	①実習に向けて基礎科目の復習や実技練習を行い、知識・技術の定着を図る。 ②学年外での交流を通じて、実習に向けた学習方法や実技練習方法を学んでいく。 ③1年生は2年生の学習方法を参考に、早期に学習習慣を身につける。						
	成績評価方法	筆記試験および実技試験を総合的に判断する					
回	月日(曜日)	時限		内 容			担当者
		A組	B組				
1	5月 7日(火)	5		オリエンテーション (ゼミの運営方法について話し合う)			全教員
2	5月21日(火)	5		座学・実技			
3	5月28日(火)	5		座学・実技			
4	6月 4日(火)	5		座学・実技			
5	6月11日(火)	5		座学・実技			
6	6月18日(火)	5		座学・実技			
7	6月25日(火)	5		座学・実技			
8	7月 2日(火)	5		座学・実技			
9	7月 9日(火)	5		座学・実技			
10	7月16日(火)	5		座学・実技			
11	7月23日(火)	5		座学・実技			
12	9月 3日(火)	5		座学・実技			
13	9月10日(火)	5		座学・実技			
14	9月17日(火)	5		座学・実技			
15	9月24日(火)	5		座学・実技			
16	10月 1日(火)	5		座学・実技			
17	10月 8日(火)	5		座学・実技			
18	10月15日(火)	5		座学・実技			
19	10月22日(火)	5		座学・実技			
20	10月31日(木)	5		座学・実技			
21	11月 7日(木)	5		座学・実技			
22	11月12日(火)	5		座学・実技			
23	11月19日(火)	5		座学・実技			
24	11月26日(火)	5		座学・実技			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学・生理学の基礎的な知識も必要となるため必ず予習を行い、終了後は復習を行うこと。 ・実技練習で学んだ評価方法などの練習は授業内だけでなく授業外でも練習を必ず行うこと。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・指定教科書はなし。各担当教職員の指示に従う。 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・各自テーマに合わせた参考書を用意する。 							

シラバス

2019年度

理学療法学科 2年次

学校法人 医療創生大学
千葉・柏リハビリテーション学院

教育課程 理学療法学科

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計		
					時間数	コマ	履修 単位数	時間数	コマ	履修 単位数	時間数	コマ	履修 単位数	時間数	履修 単位数	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	14	人間関係とコミュニケーション	講義	30	15	2							30	2	
			臨床コミュニケーション論	講義				30	15	2					30	2
			自然科学概論	講義	30	15	2								30	2
			医学情報処理	講義	30	15	2								30	2
			保健体育	講義	30	15	2								30	2
			医学英語	講義	30	15	2								30	2
			心理学	講義	30	15	2								30	2
			小計		180	12	30	2	0	0	210	14				
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	12	解剖学	講義・演習	120	60	4							120	4	
			生理学	講義・演習	120	60	4								120	4
			生理学演習	演習	45	23	1								45	1
			運動学Ⅰ	講義・演習	30	15	1								30	1
			運動学Ⅱ	講義・演習	60	30	2								60	2
			臨床運動学	演習				45	23	1					45	1
			小計		375	12	45	1	0	0	420	13				
			疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	14	病理学	講義	30	15	1							
	臨床心理学	講義			15	8	1								15	1
	内科学	講義・演習			30	15	1								30	1
	整形外科	講義・演習			30	15	1								30	1
	神経内科学	講義・演習			30	15	1								30	1
	精神医学	講義			15	8	1								15	1
	小児科学	講義			15	8	1								15	1
	臨床医学と画像診断	講義・演習			30	15	1								30	1
	老年医学	講義・演習						30	15	1					30	1
リハビリテーション医学	講義	15			8	1								15	1	
人体と薬理	講義	15			8	1								15	1	
予防医学と公衆衛生	講義	30			15	1								30	1	
救命救急の基礎	講義	15	8	1								15	1			
人体と栄養	講義	15	8	1								15	1			
小計		285	13	30	1	0	0	315	14							
保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	4	リハビリテーション概論	講義	30	15	1								30	1	
		職業関連リハビリテーション学	講義	15	8	1								15	1	
		地域マネージメント論	講義				15	8	1					15	1	
		多職種連携演習	演習	45	23	1								45	1	
		小計		90	3	15	1	0	0	105	4					
専門分野	基礎理学療法	6	障害評価学Ⅰ	講義			30	15	1					30	1	
			障害評価学Ⅱ	講義			30	15	1					30	1	
			基礎理学療法	講義	30	15	2								30	2
			運動療法学総論Ⅰ	講義	30	15	1								30	1
			運動療法学総論Ⅱ	講義				30	15	1					30	1
			小計		60	3	90	3	0	0	150	6				

教育課程 理学療法学科

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次			2年次			3年次			合計		
					時間数	コマ	履修 単位数	時間数	コマ	履修 単位数	時間数	コマ	履修 単位数	時間数	履修 単位数	
専門 分野	理学療法評価学	6	理学療法評価学Ⅰ	講義	60	30	2							60	2	
			理学療法評価学Ⅱ	講義	60	30	2							60	2	
			理学療法評価学Ⅲ	講義				60	30	2					60	2
			理学療法画像評価学	講義				15	8	1					15	1
			小計		120		4	75		3	0		0	195	7	
	理学療法管理学	2	理学療法管理学	講義							30	15	2	30	2	
			小計							30		2	30	2		
	理学療法治療学	20	運動療法治療学	講義							30	15	1	30	1	
			物理療法治療学	講義				15	8	1				15	1	
			物理療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1	
			義肢装具学	講義				30	15	1				30	1	
			義肢装具学演習	演習				45	23	1				45	1	
			日常生活動作治療学	講義				30	15	1				30	1	
			中枢神経疾患理学療法治療学Ⅰ	講義				60	30	2				60	2	
			中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ	講義				30	15	1				30	1	
			骨・関節疾患理学療法治療学	講義				60	60	2				60	2	
			内部障害・呼吸器理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1	
			内部障害・呼吸器理学療法治療学演習	演習				45	23	1				45	1	
			小児疾患理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1	
			脊髄損傷理学療法治療学	講義				30	15	1				30	1	
			スポーツ理学療法学	講義				30	15	1				30	1	
			小計		30		1	540		17	45		2	615	20	
			地域理学療法学	3	生活環境論	講義				30	15	1				30
	地域理学療法学	講義			30	15	1							30	1	
	地域理学療法学演習	演習						45	23	1				45	1	
	小計				30		1	75		2	0		0	105	3	
	臨床実習	20	見学実習	実習	45		1							45	1	
			検査実習	実習				135		3				135	3	
			評価実習	実習				180		4				180	4	
			総合臨床実習Ⅰ	実習							360		8	360	8	
			総合臨床実習Ⅱ	実習							360		8	360	8	
			小計		45		1	315		7	720		16	1080	24	
	理学療法学特論	3	理学療法学特論Ⅰ	演習	45		1							45	1	
理学療法学特論Ⅱ			演習				45		1				45	1		
理学療法学特論Ⅲ			講義							30		1	30	1		
小計				45		1	45		1	30		1	120	3		
合計		104	合計		1260		51	1260		38	825		21	3345	110	

	I 基礎分野
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論</p>	科学的思考の基盤 人間と生活
	14単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床コミュニケーション論		講義	通年	PT2年	2単位	30時間	宮下雅史
教 育 目 標	【一般目標】 臨床の現場における、理学療法士としてのあるべき姿を学ぶ。						
	【行動目標】 1、人間としての基本的な振る舞いを知る。 2、臨床現場のコミュニケーションを学び、アウトプットできる場を作る。 3、臨床現場のコミュニケーションについて議論を重ね、全員で問題を解決していく。						
成績評価方法	グループ発表、最終試験にて総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	7月17日(水)	3	1	オリエンテーション	宮下雅史		
2		4	2	臨床実習とコミュニケーション(広義)			
3	7月24日(水)	3	1	社会人としての基本的な振る舞いとは			
4		4	2	プレゼンテーションの基本を学ぶ			
5	7月31日(水)	3	1	コミュニケーション論(対スーパーバイザー編)			
6		4	2	コミュニケーション実技(対スーパーバイザー編)			
7	9月 5日(木)	3	1	コミュニケーション論(対他職種編)			
8		4	2	コミュニケーション実技(対他職種編)			
9	9月12日(木)	3	1	コミュニケーション論(対患者、患者家族編)			
10		4	2	コミュニケーション実技(対患者、患者家族編)			
11	9月19日(木)	3	1	心理学から紐解く臨床コミュニケーション1			
12		4	2	心理学から紐解く臨床コミュニケーション2			
13	9月26日(木)	3	1	世渡り上手な臨床コミュニケーション1			
14		4	2	世渡り上手な臨床コミュニケーション2			
15	10月 3日(木)	3	1	各界の著名人のコミュニケーション能力の応用			
16		4	2	まとめ テスト対策			
	10月10日(木)	3	1	実技試験			
		4	2				
履修者へのコメント ・楽しい授業にしましょう。							
テキスト ・特になし							
参考書 ・特になし							

Ⅱ
専門基礎分野

- I. 基礎分野
 - i) 科学的思考の基盤 人間と生活
- II. 専門基礎分野
 - i) 人体の構造と機能及び心身の発達
 - ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
 - iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念
- III. 専門分野
 - i) 基礎理学療法学
 - ii) 理学療法評価学
 - iii) 理学療法管理学
 - iv) 理学療法治療学
 - v) 地域理学療法学
 - vi) 臨床実習
 - vii) 理学療法学特論

人体の構造と機能及び心身の発達

13単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
臨床運動学		演習	前期	PT2年	1単位	45時間	長岡洋平
教 育 目 標	【一般目標】 ・ 健全成人の基本動作（寝返り・起き上がり・立ち上がり・歩行）のメカニズムを理解する ・ 代表的疾患における姿勢や動作の特徴を知る 【行動目標】 ・ 正常動作を自らの身体で体験し、再現することが出来る ・ 基本動作の観察ポイントを挙げる事が出来る ・ 基本動作の相分けを行い、各相毎に動的アライメントの描画と運動学的記述が出来る						
	成績評価方法	期末試験、課題レポート（提出物）で総合的に判定する					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月13日(土)	1	3	理学療法士における動作分析の位置づけ	長岡洋平		
2		2	4	動作分析の進め方			
3	4月20日(土)	1	3	姿勢の評価 - 臥位・坐位・立位 -			
4		2	4	姿勢の評価と動作の関連性			
5	4月27日(土)	1	3	寝返り動作 - 健全成人の動作理解 -			
6		2	4	寝返り動作 - 動作観察と相分け -			
7	5月11日(土)	1	3	起き上がり動作 - 健全成人の動作理解 -			
8		2	4	起き上がり動作 - 動作観察と相分け -			
9	5月18日(土)	1	3	立ち上がり動作 - 健全成人の動作理解 -			
10		2	4	立ち上がり動作 - 動作観察と相分け -			
11	5月25日(土)	1	3	正常歩行			
12		2	4	バランス能力			
13	6月 1日(土)	1	3	随意運動と運動制御			
14		2	4	バイオメカニクスの基礎			
15	6月 8日(土)	1	3	片麻痺患者の姿勢と動作の特徴			
16		2	4	片麻痺患者の動作分析（演習）			
17	6月15日(土)	1	3	高齢者の姿勢と動作の特徴			
18		2	4	変形性関節症の姿勢と動作の特徴（演習）			
19	6月22日(土)	1	3	運動失調症の姿勢と動作の特徴			
20		2	4	パーキンソン病の姿勢と動作の特徴（演習）			
21	6月29日(土)	1	3	中枢疾患・整形疾患・高齢者・神経難病の歩行観察			
22		2	4	グループワーク			
23	7月6日(土)	1	3	発表会			
24		2	4	授業のまとめ			
				期末試験			
履修者へのコメント ・ 動作分析は理学療法士にとって重要なスキルの1つです。実技や演習を多く取り入れて、健全成人の基本動作を理解していただきたいと思います。また、授業内では患者動画も多く提示し、疾患特有の異常動作などの理解も深めていきます。							
テキスト ・ 標準理学療法学 臨床動作分析（医学書院）							
参考書 ・ 動作分析 臨床活用講座ーバイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 メジカルビュー社 ・ 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版 医歯薬出版株式会社							

	II 専門基礎分野
<p>I. 基礎分野 i) 科学的思考の基盤 人間と生活</p> <p>II. 専門基礎分野 i) 人体の構造と機能及び心身の発達 ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野 i) 基礎理学療法学 ii) 理学療法評価学 iii) 理学療法管理学 iv) 理学療法治療学 v) 地域理学療法学 vi) 臨床実習 vii) 理学療法学特論</p>	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
	14単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
老年医学		講義演習	前期	PT2年	1単位	30時間	岩本義輝
教 育 目 標	【一般目標】 医療の面からみた高齢者の特徴を理解する。						
	【行動目標】 老化に伴う身体の形態的、機能的変化について述べるができる。 高齢者に多い循環器疾患、神経疾患、整形外科疾患を挙げることができる。 4大認知症それぞれの特徴を述べるができる。						
成績評価方法	筆記試験の成績、授業態度で総合的に評価する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月12日(金)	3		老年医学とは(ガイダンス、概論)	岩本義輝		
2	4月19日(金)	3		高齢者の解剖学的、生理学的特徴			
3	4月26日(金)	3		循環器疾患1			
4	5月10日(金)	3		循環器疾患2			
5	5月17日(金)	3		呼吸器疾患			
6	5月24日(金)	3		復習(確認テスト)			
7	5月31日(金)	3		神経疾患1			
8	6月7日(金)	3		神経疾患2			
9	6月14日(金)	3		認知症1			
10	6月21日(金)	3		認知症2			
11	6月28日(金)	3		復習(確認テスト)			
12	7月5日(金)	3		整形外科疾患			
13	7月12日(金)	3		高齢者に多いその他の疾患			
14	7月19日(金)	3		復習(循環器・神経系)			
15	7月26日(金)	3		総復習(確認テスト)			
履修者へのコメント ・1年次で学習した内科学、神経内科学、整形外科学、小児科学の知識を確認しながら、高齢者の医療的問題について勉強しましょう。							
テキスト ・標準理学療法学・作業療法学 老年医学 第4版(医学書院)							
参考書							

	Ⅱ 専門基礎分野
<p>I. 基礎分野</p> <p> i) 科学的思考の基盤 人間と生活</p> <p>II. 専門基礎分野</p> <p> i) 人体の構造と機能及び心身の発達</p> <p> ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p> iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念</p> <p>III. 専門分野</p> <p> i) 基礎理学療法学</p> <p> ii) 理学療法評価学</p> <p> iii) 理学療法管理学</p> <p> iv) 理学療法治療学</p> <p> v) 地域理学療法学</p> <p> vi) 臨床実習</p> <p> vii) 理学療法学特論</p>	保健医療福祉とリハビリテーションの理念
	4単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域マネジメント論		講義	前期	PT2年	1単位	15時間	堀内賢
教 育 目 標	【一般目標】 地域理学療法のうち介護保険について、対象・制度などについて理解する						
	【行動目標】 ・介護保険の対象者について理解する ・特定疾患について、その疾患の概要を理解する						
成績評価方法	定期試験およびレポートなどを総合的に判断する						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	7月 1日(月)	3	1	介護保険制度について(概論)	堀内賢		
2		4	2	介護保険の対象について			
3	7月 8日(月)	3	1	特定疾患の理解①			
4		4	2	特定疾患の理解②			
5	7月22日(月)	3	1	介護認定について			
6		4	2	介護保険に関わる法律について			
7	7月29日(月)	3	1	国家試験との関わり			
8		4	2	まとめ			
履修者へのコメント 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は退室させる。教室の座席については、指定された席に着席して授業に臨むこと。Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。							
テキスト							
参考書							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

基礎理学療法学

6単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
障害評価学 I		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	長岡洋平
教 育 目 標	【一般目標】 ・評価実習に向けて各検査の意義と繋がりを理解する ・医療人として基本的なコミュニケーション能力・判断力・態度を身につける 【行動目標】 ・神経系理学療法に必要な検査測定手技・医療面接の技能習得を目指す						
	成績評価方法 ・OSCE(objective structured clinical examination:客観的臨床能力試験) ・OSCEと期末試験で総合的に判定する						
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 7日(土)	1	3	療法士面接とリスク管理/移乗・体位変換誘導方法	長岡洋平		
2		2	4	麻痺側運動機能の評価 (BRS)			
3	9月14日(土)	1	3	感覚検査/腱反射・病的反射/関節可動域検査			
4		2	4	OSCEトレーニング			
5	10月 5日(土)	1	3	OSCE (脳梗塞左片麻痺)			
6		2	4				
7	10月12日(土)	1	3	OSCEフィードバック			
8		2	4	筋緊張検査 (触診・被動) /バランス検査			
9	10月26日(土)	1	3	OSCE (パーキンソン病)			
10		2	4				
11	11月 2日(土)	1	3	OSCEフィードバック			
12		2	4	運動失調症の検査			
13	11月 9日(土)	1	3	OSCE (運動失調症)			
14		2	4				
15	11月16日(土)	1	3	OSCEフィードバック			
16		2	4	授業のまとめ			
				期末試験			
履修者へのコメント ・実習では、適切な検査測定を行なうことだけでなく、学生として正しい接し方や心理的配慮、誘導ができることも大切です。OSCE (客観的臨床能力試験) による模擬患者への演習を通して、正確な検査技術の他、態度や習慣などについても指導していきます。							
テキスト ・ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ・理学療法評価学 金原出版株式会社 *毎回、授業プリントあり							
参考書 ・標準理学療法学 神経理学療法学 医学書院 ・標準理学療法学 理学療法評価学 医学書院							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
障害評価学Ⅱ		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	今井健太
教 育 目 標	<p>【一般目標】 整形分野での各評価の意義を理解し、実際の臨床場面での評価の繋がりについて考察する。 医療人として適切な態度、臨床場面でのリスク管理について理解し、身につける。</p> <p>【行動目標】 整形分野における疾患の病態、理学療法評価について列挙し、具体的に述べることができる。 整形分野での各病態を理解し、適切な評価方法を選択し実施できる。 実際の臨床場面を想定し医療人としての適切な態度・接遇を表現する。</p>						
	成績評価方法	・OSCE (objective structured clinical examination: 客観的臨床能力試験) および定期試験で総合的に判定する。					
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	9月 3日(火)	1	3	オリエンテーション、リスク管理、バイタル測定	今井健太		
2		2	4	移乗介助、形態測定			
3	9月10日(火)	1	3	関節可動域測定、筋力測定、筋の触診			
4		2	4	OSCE 事前練習			
5	9月17日(火)	1	3	OSCE (大腿骨頸部骨折、転子部骨折)			
6		2	4				
7	9月24日(火)	1	3	整形外科テスト、部分荷重練習、バランス検査			
8		2	4				
9	10月 1日(火)	1	3	OSCE (変形性股関節症、変形性膝関節症)			
10		2	4				
11	10月 8日(火)	1	3	振り子運動、関節可動域運動、筋力増強運動			
12		2	4	各疾患に対する基本動作の確認			
13	10月15日(火)	1	3	OSCE (肩関節周囲炎)			
14		2	4				
15	10月22日(火)	1	3	授業のまとめ・復習			
16		2	4	OSCE 全体フィードバック			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習してきた内容を実際の臨床場面と照らし合わせながら授業を進めていきます。基礎的な知識、評価方法についてももう一度復習をしていきましょう。 ・OSCE課題については授業の進行具合に合わせて基本的な評価項目から選択します。 ・授業の進行具合により上記記載されている予定を変更する場合があります。 							
テキスト							
・理学療法評価学 第5版							
参考書							
・参考書については授業内で紹介していきます。基本的には整形分野の参考書中心です。							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
運動療法学総論Ⅱ		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	康德龍
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <p>・エネルギー系など生理学的側面を考えつつ運動の処方を行えるようになる。 呼吸ガス分析を併用して行う運動負荷試験は運動強度別の生体反応を知ることができる。検出装置である機器を用い人の障害をコンピューター解析することで症状の客観評価を行い病巣診断ができるようにする。</p> <p>【行動目標】</p> <p>①重心動揺計や呼吸ガス分析機、筋電図の機械の仕組みを理解することができる。②姿勢制御のメカニズムについての的確に説明することができる。③重心動揺や運動負荷試験、筋電図を臨床で取り組むことができる。</p>						
	成績評価方法	筆記試験及び定期試験, 提出物等を総合的に判定する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月12日(金)	1	2	運梁方法の概念、目的	康德龍		
2	4月19日(金)	1	2				
3	4月26日(金)	1	2	酸素摂取量について			
4	5月10日(金)	1	2				
5	5月17日(金)	1	2	運動負荷試験			
6	5月24日(金)	1	2				
7	5月31日(金)	1	2	バランス運動について			
8	6月 7日(金)	1	2				
9	6月14日(金)	1	2	重心動揺計によりバランス運動の評価			
10	6月21日(金)	1	2				
11	6月28日(金)	1	2	筋持久力運動、レジスタンス筋力運動			
12	7月 5日(金)	1	2				
13	7月12日(金)	1	2	筋力測定 (レジスタンス筋力測定を中心に)			
14	7月19日(金)	1	2				
15	7月26日(金)	1	2	運動療法の発表			
履修者へのコメント ・運動療法の修得には呼吸循環の知識が必須であるため復習を怠らないこと。 ・呼吸循環機能や筋力運動の関連分野知識を学習すること。 ・演習には全員積極的に参加すること。							
テキスト							
参考書 ・CPX・運動療法ハンドブック							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) **理学療法評価学**
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

理学療法評価学

7単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学Ⅲ		講義	通年 (前期)	PT2年	2単位	60時間	星野光宏
教 育 目 標	<p>【一般目標】 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定項目について、その目的・意義・内容・手技を理解し、対象者個人が持つ障害を理解するために必要な知識の習得を目的とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。 4. 障害が出現するメカニズムについて説明できる。 						
	成績評価方法	筆記試験、実技試験、提出物で総合的に判定する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月11日(木)	3	1	感覚検査1	星野光宏		
2	4月18日(木)	3	1	感覚検査2			
3	4月25日(木)	3	1	感覚検査3			
4	5月 2日(木)	3	1	感覚検査4			
5	5月 9日(木)	3	1	筋緊張検査1			
6	5月16日(木)	3	1	筋緊張検査2			
7	5月23日(木)	3	1	筋緊張検査3			
8	5月30日(木)	3	1	筋緊張検査4			
9	6月 6日(木)	3	1	反射検査1			
10	6月13日(木)	3	1	反射検査2			
11	6月20日(木)	3	1	反射検査3			
12	6月27日(木)	3	1	反射検査4			
13	7月 4日(木)	3	4	片麻痺運動機能検査1			
14	7月11日(木)	3	4	片麻痺運動機能検査2			
15	7月18日(木)	3	4	まとめ			
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価学の習得には疾病、解剖学、生理学、運動学の知識が必須であるため、復習を怠らないこと。 ・理学療法士にとって最も基本的で実施頻度の高いものとなるため、授業外でも修練に励むこと。 							
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学 改訂第6版(金原出版) ・ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版(南山堂) 							
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 ・随時紹介する 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法評価学Ⅲ		講義	通年 (後期)	PT2年	2単位	60時間	星野光宏
教 育 目 標	<p>【一般目標】 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定項目について、その目的・意義・内容・手技を理解し、対象者個々人が持つ障害を理解するために必要な知識の習得を目的とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法における評価の位置づけを説明できる。 2. 理学療法評価を構成する代表的な検査・測定の目的と意義を説明することができる。 3. 検査・測定によって得られた情報がどのような意味を持つのか説明することができる。 4. 障害が出現するメカニズムについて説明できる。 						
	成績評価方法	筆記試験，実技試験，提出物で総合的に判定する。					
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	9月 5日(木)	2	4	片麻痺運動機能検査 3	星野光宏		
2	9月12日(木)	2	4	片麻痺運動機能検査 4			
3	9月19日(木)	2	4	姿勢反射検査 1			
4	9月26日(木)	2	4	姿勢反射検査 2			
5	10月 3日(木)	2	4	姿勢反射検査 3			
6	10月10日(木)	2	4	バランス検査 1			
7	10月17日(木)	2	4	バランス検査 2			
8	10月24日(木)	2	4	バランス検査 3			
9	10月31日(木)	1	3	協調性検査 1			
10		2	4	協調性検査 2			
11	11月 7日(木)	1	3	脳神経検査 1			
12		2	4	脳神経検査 2			
13	11月14日(木)	1	3	脳神経検査 3			
14		2	4	高次脳機能検査 1			
15	11月21日(木)	1	3	高次脳機能検査 2			
16		2	4	高次脳機能検査 3			
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価学の習得には疾病.解剖学.生理学.運動学の知識が必須であるため、復習を怠らないこと。 ・理学療法士にとって最も基本的で実施頻度の高いものとなるため、授業外でも修練に励むこと。 							
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学 改訂第6版 (金原出版) ・ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 (南山堂) 							
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ハンドブック 改訂第3版 第1巻 ・随時紹介する 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法画像評価学		講義	後期	PT2年	1単位	15時間	康德龍
教 育 目 標	<p>【一般目標】 患者情報の一つとして画像・映像があり近年X線・CT・MRIの画像はリハビリ室でも閲覧できるようになり理学療法士もそれらの情報を読み取る知識・技術の習得が必要である。</p> <p>【行動目標】 1. X線・CT・MRIの基本的な画像を読み方を理解する。 2. 実際の臨床で使用されるX線・CT・MRIの画像を診る。 3. 正常画像と病的画像を比較し評価をする。</p>						
	成績評価方法	筆記試験および提出物等を総合的に判断する。					
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 6日(金)	1	2	オリエンテーション 画像の読影	康德龍		
2	9月13日(金)	1	2	脊柱のヘルニア、脊髄症、			
3	9月20日(金)	4	2	狭窄症、汙り症			
4	9月27日(金)	4	2	変形性関節症			
5	10月 4日(金)	1	2	上下肢骨折、			
6	10月11日(金)	1	2	頭部外傷脳梗塞、脳内出血			
7	10月18日(金)	1	2	くも膜下出血			
8	10月25日(金)	1	2	まとめグループ発表			
履修者へのコメント ・グループワークや発表では、積極的に意見交換しながら学びを高めていくようにする							
テキスト ・PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方 第2版(医歯薬出版)							
参考書							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) **理学療法治療学**
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

理学療法治療学

20単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
物理療法治療学		講義	前期	PT2年	1単位	15時間	今井健太
教 育 目 標	【一般目標】 物理療法の基礎を学び、物理療法の目的を解剖学的・生理学的に理解する。 物理療法の作用機序、適応・禁忌・実施上の注意点について理解する。						
	【行動目標】 物理療法を実施するにあたり、物理療法の効果について他者に分かりやすく説明できる能力を身に付ける。						
成績評価方法	期末試験、授業内での課題、小テストで総合的に判定する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月 9日(火)	1	3	オリエンテーション、物理療法の基礎、リスク管理	今井健太		
2		2	4	生理学的知識の復習			
3	4月16日(火)	1	3	温熱療法Ⅰ・Ⅱ			
4		2	4	寒冷療法Ⅰ			
5	4月23日(火)	1	3	水治療法			
6		2	4	電気刺激療法Ⅰ、Ⅱ			
7	4月30日(火)	1	3	光線療法Ⅰ、牽引療法Ⅰ			
8		2	4	マッサージ療法、疾患別物理療法の選択			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学的、生理学の基礎的な知識も必要となるため復習すること。 ・授業の進行具合により、授業内容について変更する場合あり。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学 物理療法学 第4版 (医学書院) 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・EBM 物理療法学 原著 第4版 ・物理療法マニュアル 医歯薬出版株式会社 ・その他の参考書については授業内で紹介する。 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
物理療法治療学演習		演習	前期	PT2年	1単位	45時間	今井健太
教 育 目 標	【一般目標】 各疾患に対して安全に適切な物理療法を選択できるよう知識を深め理解する。						
	【行動目標】 ・各物理療法の意義や適応・禁忌について具体的に述べる。 ・実技を交え応用力を身に付け、疾患に合わせて適切な物理療法を選択し実施できる。 ・物理療法の効果について他者にわかりやすく説明できる能力を身につけ適切なオリエンテーションを行う。						
成績評価方法	実技試験、授業内での課題で総合的に判定する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	5月 7日(火)	1	3	オリエンテーション、物理療法演習での注意点・リスク管理	今井健太		
2		2	4	温熱療法(ホットパック、パラフィン)			
3	5月14日(火)	1	3	温熱療法(極超短波療法、赤外線)			
4		2	4	温熱療法(超音波療法)			
5	5月21日(火)	1	3	温熱療法の復習(前後評価含む)			
6		2	4	寒冷療法(アイスパック、クリッカー)、光線療法(レーザー)			
7	5月28日(火)	1	3	寒冷療法・光線療法の復習(前後評価含む)			
8		2	4	水治療法			
9	6月 4日(火)	1	3	水治療法			
10		2	4	電気刺激療法			
11	6月11日(火)	1	3	電気刺激療法			
12		2	4	マッサージ療法			
13	6月18日(火)	1	3	牽引療法(頸椎、骨盤)			
14		2	4	牽引療法(頸椎、骨盤)			
15	6月25日(火)	1	3	マッサージ療法、牽引療法復習(前後評価含む)			
16		2	4	全療法復習			
17	7月 2日(火)	1	3	疾患別に対する物理療法			
18		2	4	疾患別に対する物理療法			
19	7月 9日(火)	1	3	疾患別に対する物理療法			
20		2	4	疾患別に対する物理療法			
21	7月16日(火)	1	3	疾患別に対する物理療法			
22		2	4	疾患別に対する物理療法			
23	7月23日(火)	1	3	試験対策(実技)			
24		2	4	試験対策(実技)			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> 解剖学、生理学の基礎的な知識が大切になります。1年生の復習を必ずすること。 授業の進行具合により、授業内容については変更する場合あり。 演習が中心となるため、動きやすい服装を準備すること。 							
テキスト							
・標準理学療法学 物理療法学 第4版(医学書院)							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> EBM 物理療法学 第4版 物理療法マニュアル 医歯薬出版株式会社 その他参考書については授業内で紹介していく。 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
義肢装具学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	渡邊司
教 育 目 標	【一般目標】 ・多様化する義肢装具の名称・構造・機能を理解し、義肢装具療法の基礎知識を身につける。 ・リハビリテーション機器の特性を理解する。						
	【行動目標】 ・主要な義肢装具の名称・構造・機能を述べるができる。 ・リハビリテーション機器のチェックポイントを理解し、患者に応じて調整することができる。						
成績評価方法	【評価対象】 ・定期試験(筆記・実技) 【評価基準】 ・期末試験と実技試験の結果を総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担当者		
		A組	B組				
1	4月 9日(火)	3	1	オリエンテーション/切断の原因となる疾患・障害	渡邊司		
2		4	2	義手			
3	4月16日(火)	3	1	下腿義足、足部パーツ、ソケット			
4		4	2	下腿義足、アライメント			
5	4月23日(火)	3	1	大腿義足、膝継手			
6		4	2	大腿義足、ソケット			
7	4月30日(火)	3	1	大腿義足、アライメント			
8		4	2	その他の義足			
9	5月 7日(火)	3	1	上肢装具			
10		4	2	短下肢装具			
11	5月14日(火)	3	1	長下肢装具			
12		4	2	膝装具、靴型装具			
13	5月21日(火)	3	1	腰椎装具、胸椎装具			
14		4	2	頸椎装具、側彎症装具			
15	5月28日(火)	3	1	その他の装具、歩行補助具、車いす			
16		4	2	授業まとめ(国家試験対策含む)			
履修者へのコメント ・脳卒中患者や切断患者に対する理学療法において、義肢装具学は必須の知識です。本講義では義肢装具の基本的な知識を獲得し、医師・義肢装具士等と義肢装具に関して議論できる人材の育成を目指します。 ・授業の進行具合により、授業内容を変更する場合は事前にお知らせします。							
テキスト ・義肢装具のチェックポイント 第8版 ・切断と義肢 第2版							
参考書 ・PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学第1版 ・15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト装具学/義肢学 ※その他の参考資料は授業内で紹介します。							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
義肢装具学演習		演習	後期	PT2年	1単位	45時間	渡邊司
教 育 目 標	【一般目標】 ・わが国における切断に至る原因、切断手技を理解する。 ・疼痛所見および義肢装具使用者の基本動作を理解し、理学療法評価に活かすことができる。						
	【行動目標】 ・断端管理の方法を理解し、手技を実践できる。 ・基本動作時の代償動作を理解し、問題点を列挙することができる。 ・義肢装具使用者に対して、基本動作に関する助言ができる。						
成 績 評 価 方 法	【評価対象】 ・期末試験（筆記・実技） ・期限内に提出された課題						
	【評価基準】 ・期末試験、実技試験、提出課題の結果を総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	9月 3日(火)	3	1	オリエンテーション/切断部位の選択と手技、価値域	渡邊司		
2		4	2	断端管理方法、弾性包帯の巻き方、断端拘縮の予防方法			
3	9月10日(火)	3	1	浮腫の生じやすい環境、一般的理学療法評価（形態測定・断端評価）			
4		4	2	コンプレッション値、断端測定、MMT, ROM			
5	9月17日(火)	3	1	運動療法の種類、ADL			
6		4	2	アライメント調整方法、平行棒の使い方			
7	9月24日(火)	3	1	アライメント調整方法（実技）			
8		4	2	階段昇降、医療保険制度			
9	10月 1日(火)	3	1	装具が与える影響、処方時の判断基準			
10		4	2	運動学習、KAFOを使用した装具療法			
11	10月 8日(火)	3	1	CPGとは、KAFOを用いた歩行介助ポイント			
12		4	2	KAFOからの脱却			
13	10月15日(火)	3	1	AF0の働き、合併しやすい症状			
14		4	2	上肢装具、AF0を用いた歩行介助			
15	10月22日(火)	3	1	装具歩行の動作分析①			
16		4	2	装具歩行の動作分析②			
17	10月29日(火)	3		施設見学			
		4					
18	11月 5日(火)		3	施設見学			
			4				
19	11月12日(火)	3	1	装具歩行の動作分析③			
20		4	2	装具歩行の動作分析④			
21	11月19日(火)	3	1	下腿切断患者の歩行分析①			
22		4	2	下腿切断患者の歩行分析②			
23	11月26日(火)	1	3	授業まとめ（国家試験対策含む）			
24		2	4	授業まとめ（国家試験対策含む）			
履修者へのコメント ・わが国の超高齢社会に伴い、臨床現場において切断患者のリハビリテーションに携わる機会は珍しくありません。将来の臨床現場で苦手意識を持たないように、本講義にて学びを深めていきましょう。 ・授業の進行具合により、授業内容を変更する場合は事前にお知らせします。							
テキスト ・切断と義肢 第2版 ・義肢装具のチェックポイント 第8版（医学書院）							
参考書 ・PT・OTビジュアルテキスト義肢・装具学 第1版 ・15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト装具学/義肢学 ※その他の参考資料は講義内で紹介します。							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
日常生活動作治療学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	宮下雅史
教 育 目 標	【一般目標】 日常生活動作を疾患別に理解し、自分でも実演できるようになる。						
	【行動目標】 1、日常生活動作の基本を知る。 2、代表的なADLを評価できる。 3、手本として見せられるように実演できるようになる。						
成績評価方法	グループ発表、最終試験にて総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月15日(月)	3	1	オリエンテーション	宮下雅史		
2		4	2	ADLの概念とQOL			
3	4月17日(水)	1	3	QOLの評価とICF			
4		2	4	基本姿勢、基本動作			
5	4月22日(月)	3	1	ADL評価1			
6		4	2	ADL評価2			
7	5月 8日(水)	1	3	基本動作1			
8		2	4	基本動作2			
9	5月15日(水)	1	3	基本動作3			
10		2	4	基本動作4			
11	5月22日(水)	1	3	疾患別ADL 1			
12		2	4	疾患別ADL 2			
13	5月29日(水)	1	3	疾患別ADL 3			
14		2	4	疾患別ADL 4			
15	6月 5日(水)	1	3	生活関連動作について			
16		2	4	まとめ テスト対策			
	6月10日(月)	3	1	実技試験			
		4	2				
履修者へのコメント ・楽しい授業にします。							
テキスト ・標準理学療法療法学 日常生活活動動作・生活環境学 第5版(医学書院)							
参考書 ・特になし							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患理学療法治療学 I		講義	通年 (前期)	PT2年	2単位	60時間	水谷絵津子 北村達夫
教 育 目 標	<p>【一般目標】 中枢神経障害は、理学療法の主要な対象疾患である。その理学療法の根底にある中枢神経に関する知識を整理するとともに、理学療法との関係や意義を理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系および中枢神経系の構造と機能を理解する。 2. 脳血管障害の理学療法経過について理解する。 3. 脳血管障害のリスク管理を実施できる。 4. 脳血管障害にかかる理学療法が実施できる。 						
	成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に判断する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月11日(木)	4	2	中枢神経系の構造と機能	水谷絵津子		
2	4月18日(木)	4	2	脳卒中の発症及び回復メカニズム			
3	4月25日(木)	4	2	画像評価①			
4	5月 2日(木)	4	2	画像評価②			
5	5月 9日(木)	4	2	脳卒中の障害と病態理解 ①意識障害			
6	5月16日(木)	4	2	脳卒中の障害と病態理解 ②運動麻痺			
7	5月23日(木)	4	2	脳卒中の障害と病態理解 ③異常筋緊張			
8	5月30日(木)	4	2	脳卒中の障害と病態理解 ④感覚障害			
9	6月 6日(木)	4	2	脳卒中の障害と病態理解 ⑤異常歩行 ⑥その他			
10	6月13日(木)	4	2	脳卒中に対する評価の進め方①			
11	6月20日(木)	4	2	脳卒中に対する評価の進め方②			
12	6月27日(木)	4	2	急性期の理学療法			
13	7月 4日(木)	4	3	回復期の理学療法			
14	7月11日(木)	4	3	生活期の理学療法			
15	7月18日(木)	4	3	上肢に対する理学療法			
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行によって、講義内容が変更となることがあります。 ・受講にあたり、解剖学、生理学の復習をしましょう。 							
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 (医学書院) ・脳卒中機能評価・予後予測マニュアル (医学書院) ・理学療法ハンドブック 第1巻, 第3巻 (協同医書出版社) 							
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気が見える7 脳・神経 (MEDIC MEDIA) 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患理学療法治療学 I		講義	通年 (後期)	PT2年	2単位	60時間	水谷絵津子 北村達夫
教 育 目 標	<p>【一般目標】 中枢神経障害は、理学療法的主要な対象疾患である。その理学療法の根底にある中枢神経に関する知識を整理するとともに、理学療法との関係や意義を理解する。</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経系および中枢神経系の構造と機能を理解する。 2. 中枢神経障害の原因や障害像、医学的治療方針を説明できる。 3. 理学療法の治療手段である運動療法の意義と基本的な考え方を説明できる。 4. 基本的な理学療法を実施できる。 						
	成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に評価する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 9日(月)	1	3	高次脳機能障害 (言語障害, 失認)	北村達夫		
2		2	4	高次脳機能障害 (失認, 失行)			
3	9月30日(月)	1	3	嚥下機能障害			
4		2	4	小脳 (失調症状)			
5	10月 7日(月)	1	3	小脳 (失調症状)			
6		2	4	小脳 (脊髄小脳変性症)			
7	10月26日(土)	3	1	中枢変性疾患 (パーキンソン病 1)			
8		4	2	中枢変性疾患 (パーキンソン病 2)			
9	10月28日(月)	1	3	中枢変性疾患 (パーキンソン病 3)			
10		2	4	中枢変性疾患 (ギランバレー症候群)			
11	11月11日(月)	1	3	中枢変性疾患 (多発性硬化症 1)			
12		2	4	中枢変性疾患 (多発性硬化症 2)			
13	11月18日(月)	1	3	中枢変性疾患 (筋萎縮性側索硬化症 1)			
14		2	4	中枢変性疾患 (筋萎縮性側索硬化症 2)			
15	11月25日(月)	1	3	その他の中枢変性疾患			
16		2	4	その他 (正常圧水頭症, 頭部外傷, 脳腫瘍など), まとめ			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進行によって講義内容および実技内容, 順序が変更になることがある。 ・ 中枢神経に関する生理学, 解剖学について, 復習および当該科目の予習を行い, 授業に臨むこと。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 第2版 (医学書院) ・ 授業内でもプリント配布予定 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気がみえる vol. ⑦脳・神経 MEDIC MEDIA ・ 脳卒中理学療法の理論と技術 MEDICALVIEW 他 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
中枢神経疾患理学療法治療学Ⅱ		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	近藤喜彦
教 育 目 標	【一般目標】 中枢神経疾患への評価・治療をシュミレーションにて経験し、評価実習への基本的な知識技術を獲得していきます。						
	【行動目標】 ステップス・トゥ・フォローの根幹に位置する「機能にプラトーはない」というコンセプトから「臨床推論」について考察し、実技における実践的な、評価・治療のシュミレーションを体験していきます。Tone（姿勢筋緊張）の調整 Challenge（前頭前野の活性化）を志向する特殊なハンドリングの、理論的背景・具体的な手順を実技中心に紹介し、一人でも多く興味を持ってもらうことを目標としています。						
成績評価方法	期末試験、実技試験、提出物で総合的に評価する 期末試験（筆記試験）100点 実技試験10点 レポート5点（及第・考慮）						
	注意 再試験 筆記試験のみ100点（実技試験・レポート考慮されず）						
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 4日(水)	3	1	授業の概要紹介PP(パワーポイント使用) 実技 背臥位評価	近藤喜彦		
2		4	2	ポスチュラルセット（姿勢準備） 寝返り C・PKP			
3	9月11日(水)	3	1	課題検討 実技 寝返り DKP			
4		4	2	実技 寝返り DKP 寝返り 腹臥位			
5	9月18日(水)	3	1	課題検討 実技 起き上がり C・PKP			
6		4	2	実技 起き上がり DKP active supine			
7	9月25日(水)	3	1	課題検討 実技 active supine			
8		4	2	実技 立ち上がり準備 bridge 下肢伸展機構			
9	10月 2日(水)	3	1	課題検討 実技 flying 立ち上がり			
10		4	2	実技 立ち上がり stop standing			
11	10月 9日(水)	3	1	課題検討 実技 歩行			
12		4	2	実技 8つのTips(裏技)とTone調整			
13	10月16日(水)	3	1	課題検討 実技 福祉現場のchallenge志向			
14		4	2	実技 総復習（実技テストに向けて）			
15	10月23日(水)	3	1	実技テスト・自習レポート作成			
16		4	2	実技テスト・自習レポート作成			
17	10月30日(水)	3	1	レポート提出・実技テスト総評・期末試験に向けて			
18		4	2	臨床コンセプトPP 臨床デモンストレーション			
				期末試験（筆記試験）空欄穴埋め方式 持ち込み不可			
履修者へのコメント ・授業で紹介する「ハンドリング」は、参考書・講習会等でもほとんど触れられてなく、貴重な体験になると思われます。くれぐれも事故等に注意し、集中した実技参加が望めます。出席レポートは、復習も兼ねて講義・実技内容および、積極的な意見・感想を期待します。							
テキスト ・特になし（出版が間に合えば自著「患者様の機能にplateauはない（仮）」をテキストと致します） 事前に配布する、各種レジュメ、事例・課題資料を授業前までに読んでおくこと。							
参考書 ・Patricia M. Davies 富田昌夫（監訳）額谷一夫（訳）『ステップス・トゥ・フォロー』（丸善出版）							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
骨・関節疾患理学療法治療学		講義	通年 (前期)	PT2年	2単位	60時間	水谷絵津子
教 育 目 標	<p>【一般目標】 運動器障害に対する理学療法は、他の障害に対する理学療法ともかなり共通し、基本となるものが多い。本講義では基本的な主義について、その理論が説明でき、実際に手技が実行できるようになることを目標とする。</p> <p>【行動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の病態を理解する。 2. 組織の治癒過程を説明できる。 3. 整形外科疾患に対する基本的な理学療法プログラムを実施できる。 						
	成績評価方法	中間試験，期末試験，課題提出物にて総合的に評価する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月12日(金)	2	1	組織再生・修復(1) 総論	水谷絵津子		
2	4月19日(金)	2	1	組織再生・修復(2) 評価と治療			
3	4月26日(金)	2	1	骨折と脱臼(1) 総論			
4	5月10日(金)	2	1	骨折と脱臼(2) 評価と治療			
5	5月17日(金)	2	1	骨折と脱臼(1) 高齢者の骨折：上肢			
6	5月24日(金)	2	1	骨折と脱臼(2) 高齢者の骨折：下肢			
7	5月31日(金)	2	1	骨折と脱臼(3) 評価と治療			
8	6月 7日(金)	2	1	変形性関節症(1) 総論			
9	6月14日(金)	2	1	変形性関節症(2) 評価と治療			
10	6月21日(金)	2	1	人工股関節・膝関節置換術(1) 総論			
11	6月28日(金)	2	1	人工股関節・膝関節置換術(2) ADLトレーニング			
12	7月 5日(金)	2	1	関節リウマチ(1) 総論			
13	7月12日(金)	2	1	関節リウマチ(2) 評価と治療			
14	7月19日(金)	2	1	末梢神経損傷(1) 総論			
15	7月26日(金)	2	1	末梢神経損傷(2) 評価と治療			
<p>履修者へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行によって、講義内容が変更となることがあります。 ・受講にあたり解剖学，生理学等の復習をしましょう。 							
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ハンドブック 改訂第4版 全4巻セット(協同医書出版) 							
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて講義内で紹介します。 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
骨・関節疾患理学療法治療学		講義	通年 (後期)	PT2年	2単位	60時間	水谷絵津子
教 育 目 標	【一般目標】 運動器障害に対する理学療法は、他の障害に対する理学療法ともかなり共通し、基本となるものが多い。本講義では基本的な主義について、その理論が説明でき、実際に手技が実行できるようになることを目標とする。						
	【行動目標】 1. 各疾患の病態を理解する。 2. 組織の治癒過程を説明できる。 3. 整形外科疾患に対する基本的な理学療法プログラムを実施できる。						
成績 評価 方法	中間試験、期末試験、課題提出物にて総合的に評価する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	9月 5日(木)	1	3	肩関節周囲炎(1) 総論	水谷絵津子		
2	9月12日(木)	1	3	肩関節周囲炎(2) 評価と治療			
3	9月19日(木)	1	3	頸部疾患(1) 総論			
4	9月26日(木)	1	3	頸部疾患(2) 評価と治療			
5	10月 3日(木)	1	3	腰部疾患(1) 総論			
6	10月10日(木)	1	3	腰部疾患(2) 評価と治療			
7	10月17日(木)	3	1	脊椎の手術(1)			
8		4	2	脊椎の手術(2) 評価と治療			
9	10月24日(木)	3	1	ケーススタディ			
10		4	2				
11	10月31日(木)	3	1	骨関節疾患における画像評価①			
12	11月 7日(木)	3	1	骨関節疾患における画像評価②			
13	11月14日(木)	3	1	褥瘡の病態, 理学療法			
14	11月21日(木)	3	1	熱傷に対する治療の概念			
15	11月25日(月)	3	1	熱傷治療における理学療法			
履修者へのコメント ・授業の進行によって、講義内容が変更となることがあります。 ・受講にあたり解剖学、生理学等の復習をしましょう。							
テキスト ・理学療法ハンドブック 改訂第4版 全4巻セット(協同医書出版)							
参考書 ・必要に応じて講義内で紹介します。							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
内部障害・呼吸器理学療法治療学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	水谷絵津子 北村達夫
教 育 目 標	【一般目標】 内科系疾患に対する理学療法は超高齢化社会を迎え、年々、対象疾患数として増加が見られている。内臓器の生理学、または病態生理や、疾患に対する理解とそれに起因する機能障害への対処や予防について理解する。						
	【行動目標】 ①各疾患に関連する機能障害を説明する。 ②各疾患に対する理学療法学としての対処や予防法を説明する。 ③各疾患のリスク管理を説明する。						
成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に評価する。						
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者		
		A組	B組				
1	4月 8日(月)	1	3	オリエンテーション・代謝性疾患(糖尿病)の理学療法	北村		
2		2	4	代謝性疾患(糖尿病, CKD)の理学療法			
3	4月15日(月)	1	3	代謝性疾患(CKD:人工透析含む)の理学療法			
4		2	4	代謝性疾患など(肝臓疾患)の理学療法			
5	4月22日(月)	1	3	代謝性疾患(肝臓, 腸疾患)の理学療法, 感染対策			
6		2	4	代謝性疾患(高血圧症, メタボリックシンドロームなど)の理学療法			
7	5月 8日(水)	3	1	呼吸器疾患の理学療法(呼吸機能の評価, 呼吸不全の病態)	水谷		
8		4	2	呼吸器疾患の理学療法(呼吸器疾患 各論 COPD)			
9	5月13日(月)	1	3	呼吸器疾患の理学療法(呼吸器疾患 各論 肺炎・無気肺)			
10		2	4	呼吸器疾患の理学療法(呼吸器疾患 各論 LK, 外科術後)			
11	5月20日(月)	1	3	循環器疾患の理学療法(理学療法に必要な循環器の解剖学と生理学)	北村		
12		2	4	循環器疾患の理学療法(心電図)			
13	5月27日(月)	1	3	循環器疾患の理学療法(心肺運動負荷試験)			
14		2	4	循環器疾患の理学療法			
15	6月10日(月)	1	3	循環器疾患の理学療法(BLS含む)			
16		2	4	循環器疾患の理学療法, まとめ			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・内科学, 病理学などの予習および復習も行い、授業に参加すること。(予習・復習ともに各2時間) ・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがあります。 							
テキスト							
・標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学(医学書院)							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・「内部障害理学療法」医歯薬出版株式会社 ・「内部障害理学療法学テキスト」第2版 南江堂 							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員	
内部障害・呼吸器理学療法治療学演習		演習	通年	PT2年	1単位	45時間	水谷絵津子 北村達夫	
教 育 目 標	【一般目標】 内科系疾患に対する理学療法は超高齢化社会を迎え、年々、対象疾患数として増加が見られている。内部障害における理学療法の理論を踏まえ、基本的な理学療法を実施できるようになることを目標とする。							
	【行動目標】 ①各疾患に関連する機能障害を説明する。 ②各疾患に対する理学療法学としての対処や予防法を説明する。 ③各疾患のリスク管理を説明する。							
成績評価方法	期末試験、提出物で総合的に評価する。							
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者			
		A組	B組					
1	6月17日(月)	1	3	血圧測定	北村			
2		2	4	バイタル測定				
3	6月22日(土)	3	1	内部障害の理学療法				
4		4	2	心音の確認				
5	6月24日(月)	1	3	心電図①(12誘導心電図)				
6		2	4	(モニター心電図)				
7	7月 1日(月)	1	3	心電図②(12誘導心電図)				
8		2	4	(モニター心電図)				
9	7月 8日(月)	1	3	運動負荷試験の概要				
10		2	4	運動負荷試験の意義				
11	7月22日(月)	1	3	運動負荷試験①(単一段階負荷試験の概要)				
12		2	4	運動負荷試験②(単一段階負荷試験の実践)				
13	7月29日(月)	1	3	運動負荷試験③(多段階負荷試験の概要)				
14		2	4	運動負荷試験④(多段階負荷試験の実践)				
15	9月 2日(月)	1	3	運動耐容能の評価(概要)				
15		2	4	運動耐容能の評価(実践)				
17	9月 6日(金)	2	1	呼吸器の体表解剖		水谷		
18	9月13日(金)	2	1	呼吸器疾患のフィジカルアセスメント				
19	9月27日(金)	1	3	呼吸器疾患の理学療法評価①				
20		2	4	呼吸器疾患の理学療法評価②				
21	10月 4日(金)	2	1	呼吸器疾患に対する理学療法①(呼吸介助)				
22	10月11日(金)	2	1	呼吸器疾患に対する理学療法②(体位排痰法)				
23	10月18日(金)	2	1	呼吸器疾患に対する理学療法③(吸引, その他)				
履修者へのコメント ・内科学, 病理学などの予習および復習も行い、授業に参加すること。(予習・復習ともに各2時間) ・授業の進行によって講義内容および実技内容、順序が変更になることがあります。								
テキスト ・標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学(医学書院)								
参考書 ・「内部障害理学療法」医歯薬出版株式会社 ・「内部障害理学療法学テキスト」第2版 南江堂								

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
小児疾患理学療法治療学		講義	前期	PT2年	1単位	30時間	山崎康幸
教 育 目 標	【一般目標】 小児の障害を引き起こす主な疾患の治療を学ぶ。						
	【行動目標】 ①疫学、予後について説明できる。 ②小児のリハビリテーションについて説明できる。						
成績評価方法	本試験（80％）、4回の小テスト（20％）で判定する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	6月 4日(火)	3	1	正常発達①粗大運動	山崎康幸		
2		4	2	正常発達②微細運動			
3	6月11日(火)	3	1	小テスト①、運動発達の検査			
4		4	2	運動発達検査・評価			
5	6月18日(火)	3	1	正常姿勢反射			
6		4	2	異常姿勢反射			
7	6月25日(火)	3	1	小テスト②、脳性麻痺①四肢麻痺			
8		4	2	脳性麻痺②痙直型両麻痺			
9	7月 2日(火)	3	1	脳性麻痺③痙直型片麻痺			
10		4	2	脳性麻痺④アテトーゼ型			
11	7月 9日(火)	3	1	小テスト③、二分脊椎			
12		4	2	知的障害児			
13	7月16日(火)	3	1	子どもの遺伝疾患			
14		4	2	呼吸障害・重症心身障害児			
15	7月23日(火)	1	3	小テスト④、子どもの療育			
16		2	4	まとめ			
履修者へのコメント							
・小児のリハビリテーションは中枢神経の理解も深まりますので、しっかり身に付けていきましょう。							
テキスト							
・シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト 改訂第3版（南江堂）							
参考書							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
脊髄損傷理学療法治療学		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	水谷絵津子
教 育 目 標	【一般目標】 脊髄損傷の病態を理解した上で、対象者に対する理学療法を実施することが出来る。						
	【行動目標】 ①脊髄損傷の病態を説明できる。 ②損傷高位に応じた理学療法評価が実施できる。 ③対象者に応じた理学療法プログラムを立案できる。						
成績評価方法	筆記試験および提出物等を総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	9月 2日(月)	3	1	脊髄損傷の基礎知識・1 (脊髄の解剖, 神経症状 等)	水谷絵津子		
2	9月 9日(月)	3	1	脊髄損傷の基礎知識・2 (合併症, 障害受容過程 等)			
3	9月20日(金)	1	3	脊髄損傷の基礎知識・3			
4		2	4	脊髄損傷の理学療法評価・1 (損傷の高位診断 等)			
5	9月30日(月)	3	1	脊髄損傷の理学療法評価・2 (損傷の高位診断 等)			
6	10月 7日(月)	3	1	脊髄損傷の理学療法評価・3 (実技を含む)			
7	10月21日(月)	3	1	脊髄損傷の理学療法 (総論)			
8	10月29日(火)	1・2	1・2	脊髄損傷急性期～回復期の理学療法, リスク管理			
9	11月 5日(火)					1・2	
10	11月12日(火)	1	3	損傷高位別 (四肢麻痺) の基本動作, 日常生活動作			
11		2	4	損傷高位別 (四肢麻痺) の基本動作・日常生活動作 (実技含む)			
12	11月19日(火)	1	3	損傷高位別 (対麻痺) の基本動作, 日常生活動作			
13		2	4	損傷高位別 (対麻痺) の基本動作・日常生活動作 (実技含む)			
14	11月26日(火)	3	1	住宅改修			
15		4	2	脊髄損傷者に役立つ制度と法律			
履修者へのコメント ・解剖学、生理学、運動学を復習して講義を受けてください。 ・授業の進行によって講義内容、実技内容等に変更が生じることがあります。							
テキスト ・脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 (文光堂)							
参考書 ・必要に応じ、講義内で紹介します。							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
スポーツ理学療法学		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	堀内賢
教 育 目 標	【一般目標】 理学療法とスポーツ、その現場での実際の事由について理解する						
	【行動目標】 スポーツと理学療法との関わりについて知識を得る 実際のスポーツ現場での理学療法士の役割について知る スポーツ現場での評価方法を体験する						
成績 評価 方法	定期試験およびレポートなどを総合的に判断する						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1	9月 2日(月)	4	2	オリエンテーション 自己紹介	堀内賢		
2	9月 9日(月)	4	2	様々な現場で行われるスポーツ理学療法			
3	9月30日(月)	4	2	予防(ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチ)			
4	10月 7日(月)	4	2	トレーニング(筋力トレーニングの原則、現場で行われているトレーニング)			
5	10月17日(木)	1	3	熱中症、脳震盪などの救急対応			
6	10月21日(月)	4	2	テーピングなど			
7	10月24日(木)	1	3	スポーツマッサージ			
8	10月28日(月)	3	1	症例別の実際の理学療法①			
9		4	2	症例別の実際の理学療法②			
10	10月31日(木)	4	2	動作の評価(実際の映像を見て 野球)			
11	11月 7日(木)	4	2	動作の評価(実際の映像を見て 球技など)			
12	11月14日(木)	4	2	動作の評価(柔道、剣道など)			
13	11月18日(月)	4	2	理学療法士+αのトレーナ資格について			
14	11月21日(木)	4	2	グループワーク①(実際のスポーツ動作を見ての評価)			
15	11月25日(月)	4	2	引き続きグループワークと発表			
履修者へのコメント 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は退室させる。教室の座席については、指定された席に着席して授業に臨むこと。Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。実習の際は、事前に指定するので動きやすい服装を準備すること							
テキスト ・							
参考書 ・ 投球障害肩 こう診てこう治せ 山口光國 メジカルビュー社							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合理学療法学Ⅱ		講義	通年	PT2年	2単位	60時間	淵橋潤也
教 育 目 標	<p>【一般目標】 評価実習・臨床実習に備え、理学療法における代表疾患の評価結果、問題点の抽出、目標設定や治療法の選択などをどうするかを自主学習を通して考え、臨床思考・臨床推論を身につける。</p> <p>【行動目標】 基礎知識を教科書・文献等で調べ、理解困難な点は助言を求め、臨床思考・推論を述べるができる。</p>						
	成績評価方法	レジュメの体裁と内容で判断する。					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1 2	6月26日(水)	1 2	3 4	オリエンテーション、課題配布	淵橋潤也		
3 4	7月 3日(水)	1 2	3 4	情報収集を学ぶ			
5 6	7月10日(水)	1 2	3 4	評価結果から推論する①			
7 8	7月17日(水)	1 2	3 4	評価結果から推論する②			
9 10	7月24日(水)	1 2	3 4	評価結果から推論する③			
11 12	7月31日(水)	1 2	3 4	評価結果から推論する④			
13 14	9月 4日(水)	1 2	3 4	評価結果から推論する⑤			
15 16	9月11日(水)	1 2	3 4	評価結果から推論する⑥			
17 18	9月18日(水)	1 2	3 4	統合と解釈する①			
19 20	9月25日(水)	1 2	3 4	統合と解釈する②			
21 22	10月 2日(水)	1 2	3 4	症例から学ぶ①			
23 24	10月 9日(水)	1 2	3 4	症例から学ぶ②			
25 26	10月16日(水)	1 2	3 4	レジュメ作成①			
27 28	10月23日(水)	1 2	3 4	レジュメ作成②			
29 30	10月30日(水)	1 2	3 4	レジュメ発表			
履修者へのコメント ・実習に向けて少しでも役に立つ授業にしたいと思います。頑張りましょう！							
テキスト ・適宜プリント配布							
参考書 ・様々な文献、教科書							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

地域理学療法学

3単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
生活環境論		講義	後期	PT2年	1単位	30時間	大熊兼司
教 育 目 標	【一般目標】	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <h2 style="margin: 0;">後期配布します</h2> </div>					
	【行動目標】						
成績評価方法							
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	11月 6日(水)	1	3	大熊兼司			
2		2	4				
3	11月13日(水)	1	3				
4		2	4				
5	11月20日(水)	1	3				
6		2	4				
7	11月27日(水)	1	3				
8		2	4				
9	12月25日(水)	1	3				
10		2	4				
11	1月 8日(水)	1	3				
12		2	4				
13	1月15日(水)	1	3				
14		2	4				
15	1月22日(水)	1	3				
16		2	4				
履修者へのコメント							
テキスト							
・標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 (医学書院)							
参考書							
・							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
地域理学療法学演習		演習	前期	PT2年	1単位	45時間	堀内賢
教 育 目 標	【一般目標】 地域理学療法の概念、方法、法律について理解する						
	【行動目標】 ・地域理学療法の一般概念を理解する ・地域理学療法に関わる法制度について理解する ・在宅でのリハビリや理学療法について理解する						
成績評価方法	定期試験およびレポートなどを総合的に判断する						
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
1	4月11日(木)	1	3	自己紹介ならびにオリエンテーション	堀内賢		
2		2	4				
3	4月18日(木)	1	3	地域リハビリテーションの概念			
4		2	4				
5	4月25日(木)	1	3	地域理学療法と地域リハビリテーションの位置づけ			
6		2	4				
7	5月 2日(木)	1	3	介護保険			
8		2	4				
9	5月 9日(木)	1	3	要介護認定とケアマネジメント			
10		2	4				
11	5月16日(木)	1	3	地域包括ケアシステム			
12		2	4				
13	5月23日(木)	1	3	特定疾病について			
14		2	4				
15	5月30日(木)	1	3	在宅での理学療法			
16		2	4				
17	6月 6日(木)	1	3	住環境について			
18		2	4				
19	6月13日(木)	1	3	福祉用具について			
20		2	4				
21	6月20日(木)	1	3	動作指導と介助方法について			
22		2	4				
23	6月27日(木)	1	3	まとめ			
24		2	4				
履修者へのコメント 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は退室させる。教室の座席については、指定された席に着席して授業に臨むこと。Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1 時間半の集中を要求する。							
テキスト							
参考書							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) **臨床実習**
- vii) 理学療法学特論

臨床実習

24単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
検査実習		実習	後期	PT2年	3単位	135時間	今井健太
教 育 目 標	<p>【 一般目標 】 医療・保健・福祉に関わる理学療法士としての態度を身に付ける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を捉えるための評価技術を向上させる。</p> <p>【 行動目標 】 ①専門職として責任ある態度，行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し，専門職としての人間性を養う。 ③臨床実習指導者（SV）の指導の下に適切な理学療法検査法を選択し、実施する経験を積む。 ④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ⑤学生としての必要な記録と報告ができる。</p>						
	成績評価方法	別紙（検査実習の手引き）参照のこと					
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者		
		A組	B組				
	11月22日(金)	3・4		検査実習 ガイダンス	今井健太		
	2019年12月 2日(月) ～ 2019年12月21日(土)			検査実習	全教員		
	12月23日(月)	1・2		検査実習 報告会・検討会	今井健太		
履修者へのコメント ・検査実習に向けて、各自基礎勉強・演習の練習を怠らないこと。 ・実習に対応できる体調管理を行うこと。 ・皆勤で臨めるように準備すること。（自宅では予習・復習を徹底すること）							
テキスト ・指定なし							
参考書 ・指定なし							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
評価実習		実習	後期	PT2年	4単位	180時間	今井健太
教 育 目 標	<p>【 一般目標 】 医療・保健・福祉に関わる理学療法士としての態度を身に付ける。これまでに修得した知識・技術を臨床場面に応用し、対象者の問題を捉えるための評価技術を向上させる。</p> <p>【 行動目標 】 ①専門職として責任ある態度、行動をとることができる。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し、専門職としての人間性を養う。 ③臨床実習指導者（SV）の指導の下に、理学療法評価を実施し、その結果の解釈や相互関係を吟味し、分析統合を経て問題点を整理することができる。そして、その問題点に対する適切な目標設定、治療プログラムの立案ができることが望ましい。 ④守秘義務・個人情報の保護について理解・実施する。 ⑤学生としての必要な記録と報告ができる。</p>						
	成績評価方法	別紙（評価実習の手引き）参照のこと					
回	月日(曜日)	時限		内 容	担当者		
		A組	B組				
	1月20日(月)	3・4		評価実習 ガイダンス	今井健太		
	2020年 1月27日(月) ～ 2020年 2月22日(土)			評価実習	全教員		
	2月24日(月)	1・2		評価実習 報告会・検討会	今井健太		
履修者へのコメント ・評価実習に向けて、各自座学・実技の練習を怠らないこと。							
テキスト ・指定なし							
参考書 ・指定なし							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

- i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

- i) 人体の構造と機能及び心身の発達
- ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
- iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

- i) 基礎理学療法学
- ii) 理学療法評価学
- iii) 理学療法管理学
- iv) 理学療法治療学
- v) 地域理学療法学
- vi) 臨床実習
- vii) 理学療法学特論

理学療法学特論

3単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
理学療法学特論Ⅱ		演習	通年	PT2年	1単位	45時間	今井健太
教 育 目 標	<p>【一般目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けて基礎科目の復習や実技練習を行い、知識・技術の定着を図る。 ・学年外での交流を通じて、実習に向けた学習方法や実技練習方法を学んでいく。 <p>【行動目標】</p> <p>2年生は教員・1年生に対して積極的に基礎科目・実技練習での指導を行い、自分自身の知識・技術の向上に努める。又、積極的にコミュニケーションを図り分かりやすく伝える力を身につける。</p>						
	成 績 評 価 方 法	期末試験で総合的に判定する。					
回	月日(曜日)	時 限		内 容			担 当 者
		A組	B組				
1	4月 9日(火)	5		座学・実技			全教員
2	4月16日(火)	5		座学・実技			
3	4月23日(火)	5		座学・実技			
4	5月 7日(火)	5		座学・実技			
5	5月21日(火)	5		座学・実技			
6	5月28日(火)	5		座学・実技			
7	6月 4日(火)	5		座学・実技			
8	6月11日(火)	5		座学・実技			
9	6月18日(火)	5		座学・実技			
10	6月25日(火)	5		座学・実技			
11	7月 2日(火)	5		座学・実技			
12	7月 9日(火)	5		座学・実技			
13	7月16日(火)	5		座学・実技			
14	7月23日(火)	5		座学・実技			
15	9月 3日(火)	5		座学・実技			
16	9月10日(火)	5		座学・実技			
17	9月17日(火)	5		座学・実技			
18	9月24日(火)	5		座学・実技			
19	10月 1日(火)	5		座学・実技			
20	10月 8日(火)	5		座学・実技			
21	10月15日(火)	5		座学・実技			
22	10月22日(火)	5		座学・実技			
23	10月31日(木)	5		座学・実技			
24	11月 7日(木)	5		座学・実技			
25	11月12日(火)	5		座学・実技			
26	11月19日(火)	5		座学・実技			
27	11月26日(火)	5		座学・実技			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学、生理学、運動学の基礎的な知識も必要となるため必ず予習を行い、終了後は復習を行うこと。 ・座学、実技練習で学んだ基礎知識、評価方法などの練習は授業内だけでなく授業外でも復習を必ず行うこと。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が勉強する項目により選択すること。 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・必要な参考書があった場合、事前に伝える。 							

シラバス

2019年度

理学療法学科 3年次

学校法人 医療創生大学
千葉・柏リハビリテーション学院

教育課程 理学療法学科

区分	教育内容	規定単位	科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計	
					時間数	履修単位数	時間数	履修単位数	時間数	履修単位数	時間数	履修単位数
基礎分野	科学的思考の基盤人間と生活	14	社会福祉学	講義	30	2					30	2
			物理	講義	30	2					30	2
			情報処理	講義	30	2					30	2
			保健体育	講義・演習	30	2					30	2
			英語	講義	30	2					30	2
			心理学	講義	30	2					30	2
			実用国語	講義・演習	30	2					30	2
			小計		210	14	0	0	0	0	210	14
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	12	解剖学	講義	120	8					120	8
			生理学	講義	120	8					120	8
			運動学	講義	60	4					60	4
			小計		300	20	0	0	0	0	300	20
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12	病理学	講義	15	1					15	1
			臨床心理学	講義	15	1					15	1
			内科学	講義	30	2					30	2
			整形外科学	講義	30	2					30	2
			神経内科学	講義	30	2					30	2
			精神医学	講義	15	1					15	1
			小児科学	講義	15	1					15	1
			障害評価学総論	講義・演習			30	2			30	2
リハビリテーション学総論Ⅰ	講義・演習					60	4	60	4			
リハビリテーション学総論Ⅱ	講義・演習					30	2	30	2			
リハビリテーション学総論Ⅲ	講義・演習					60	4	60	4			
小計		150	10	30	2	150	10	330	22			
基礎医療福祉とリハビリテーションの理念	2	リハビリテーション医学	講義	30	2					30	2	
		隣接領域概論	講義	30	2					30	2	
		小計		60	4	0	0	0	0	60	4	
専門分野	基礎理学療法学	6	リハビリテーション概論	講義	30	2					30	2
			リハビリテーション基礎演習	講義・演習	30	2					30	2
			臨床運動学	講義・演習			30	2			30	2
			小計		60	4	30	2	0	0	90	6

教育課程 理学療法学科

区分	教育内容	規定 単位	科目名	授業形態	1年次		2年次		3年次		合計	
					時間数	履修 単位数	時間数	履修 単位数	時間数	履修 単位数	時間数	履修 単位数
専 門 分 野	理学療法評価学	5	リハビリテーション評価学Ⅰ	講義・演習	60	4					60	4
			リハビリテーション評価学Ⅱ	講義・演習	60	4					60	4
			リハビリテーション評価学Ⅲ	講義・演習			60	4			60	4
			小計			120	8	60	4	0	0	180
専 門 分 野	理学療法治療学	20	運動療法学総論Ⅰ	講義・演習	30	2					30	2
			運動療法学総論Ⅱ	講義・演習			30	2			30	2
			物理療法学	講義・演習			30	2			30	2
			義肢装具学	講義・演習			30	2			30	2
			日常生活動作	講義・演習			30	2			30	2
			中枢神経疾患	講義・演習			60	4			60	4
			骨・関節疾患	講義・演習			60	4			60	4
			内部障害	講義・演習			30	2			30	2
			小児疾患	講義・演習			30	2			30	2
			脊髄損傷	講義・演習			30	2			30	2
			小計				30	2	330	22	0	0
専 門 分 野	地域理学療法学	4	生活環境論	講義			30	2			30	2
			地域リハビリテーション学	講義	30	2					30	2
			小計		30	2	30	2	0	0	60	4
専 門 分 野	臨床実習	18	見学実習	実習	45	1					45	1
			検査実習	実習			90	2			90	2
			評価実習	実習			180	4			180	4
			総合臨床実習Ⅰ	実習					315	7	315	7
			総合臨床実習Ⅱ	実習					315	7	315	7
			小計		45	1	270	6	630	14	945	21
必 須 科 目	グループ学習		ゼミ1	演習	30	2					30	2
			ゼミ2	演習			30	2			30	2
			ゼミ3	演習			30	2			30	2
			ゼミ4	演習					30	2	30	2
			小計		30	2	60	4	30	2	120	8
合計		93			1035	67	810	42	810	26	2655	135

Ⅱ
専門基礎分野

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

- I. 基礎分野
 - i) 科学的思考の基盤 人間と生活
- II. 専門基礎分野
 - i) 人体の構造と機能及び心身の発達
 - ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
 - iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念
- III. 専門分野
 - i) 基礎理学療法学
 - ii) 理学療法評価学
 - iii) 理学療法治療学
 - iv) 地域理学療法学
 - v) 臨床実習
 - vi) グループ学習

22単位

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間
リハビリテーション学総論 I	講義 演習	後期	PT3年	4単位	60時間

教 育 目 標	【一般目標】 整形分野での各評価の意義を理解し、実際の臨床場面での評価の繋がりについて理解する。 医療人としての適切な態度、臨床場面でのリスク管理について学び理解する。
	【行動目標】 整形分野での各病態を理解し、適切な評価方法を選択できる能力を身に付ける。 実際の臨床場面を想定し医療人としての適切なオリエンテーションから評価・治療技術を身に付け、実践できるようになる。

成績評価方法	・OSCE(objective structured clinical examination:客観的臨床能力試験) および定期試験を総合的に判断する
--------	---

回	月日(曜日)	時 限		内 容
		A組	B組	
1				オリエンテーション リスク管理
2				大腿骨頸部・転子部骨折に対する理学療法評価
3				OSCE課題
4				
5				変形性股関節症・変形性膝関節症 (術後管理～維持期まで) 保存療法含む
6				
7				OSCE課題
8				
9				肩関節周囲炎
10				
11				OSCE課題
12				
13				脊椎圧迫骨折
14				
15				OSCE課題
16				

履修者へのコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習してきたことを、実際の臨床場面と照らし合わせながら授業を進めていきます。 ・基礎的な知識、評価方法についてはもう一度復習をして下さい。 ・OSCE課題については授業の進行具合に合わせて基本的な評価項目から選択します。 <small>授業の進行具合により上記記載されている文字を変更する場合があります。</small>
-----------	--

テキスト	・理学療法評価学改訂第5版
------	---------------

参考書	・参考書については授業内で紹介していきます。基本的には整形分野の参考書中心に致します。
-----	---

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間
リハビリテーション学総論 I		講義 演習	後期	PT3年	4単位	60時間
教 育 目 標	【一般目標】 ・評価実習に向けて各検査の意義と繋がりを理解する ・医療人として基本的なコミュニケーション能力・判断力・態度を身につける 【行動目標】 ・神経系理学療法に必要な検査測定手技・医療面接の技能習得を目指す					
	成績評価方法 ・OSCE(objective structured clinical examination:客観的臨床能力試験) : 3段階評価 *再試験あり ・小テスト、定期試験で総合的に判定する					
回	月日(曜日)	時 限		内 容		
		A組	B組			
1				療法士面接とリスク管理/高次脳機能障害の推測		
2				移乗・体位変換誘導方法/麻痺側運動機能の評価 (BRS)		
3				筋緊張検査 (触診・被動) / 関節可動域検査		
4				感覚検査/腱反射・病的反射		
5				運動失調症の分類と検査		
6				パーキンソン病の理解とバランス検査		
7				OSCEトレーニング・小テスト		
8						
9				OSCE (脳梗塞左片麻痺)		
10						
11				OSCE (パーキンソン病)		
12						
13				OSCE (運動失調症)		
14						
15				OSCEフィードバック・授業のまとめ		
16						
				期末試験日・OSCE再試験		
履修者へのコメント ・実習では、患者に適切な検査測定を行なうだけでなく、学生として正しい接し方や心理的配慮、誘導ができることも大切です。OSCE (客観的臨床能力試験) による模擬患者への検査測定を通して、正確な検査技術の他、態度や習慣になどについても指導、助言をしていきます。						
テキスト ・ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 ・理学療法評価学 金原出版株式会社 *毎回、授業プリントあり						
参考書 ・標準理学療法学 神経理学療法学 医学書院 ・標準理学療法学 理学療法評価学 医学書院						

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間
リハビリテーション学総論Ⅱ	講義 演習	後期	PT3年	2単位	30時間

教 育 目 標	人生50年の時代から、100年の時代に急速に移りつつある。高齢者はただ単に齢を重ねただけではなく老年に特徴的な変化がみられることが明らかになり、老年医学という新しい分野が確立されてきた。その病態、特徴的疾患を学ぶことは、リハビリテーション分野にては重要である。50歳までの人を相手にしていたリハビリテーションの知識では、十分な医療を施すことはできなくなっている。ここでは、老化とは何か、老化に伴う身体の変化、予備力、特徴的な変化、内科疾患のみならず、高齢者に特徴的な疾患について学ぶ。これから増加する高齢者のリハビリテーションを安全に行うための基礎知識を習得する。
------------------	--

成 績 評 価 方 法	定期試験が60点以上であり、出席時間数が授業時間数の2/3以上である。
----------------------------	-------------------------------------

回	月日(曜日)	時限		内容
		A組	B組	
1				老年医学とは
2				老年医学の基礎的事項、老化のメカニズム
3				高齢者総合機能評価
4				老年症候群
5				老年症候群
6				臓器の加齢変化について
7				臓器の加齢変化について
8				老年疾患の臨床に必要な基礎知識
9				高齢者に特徴的疾患(1)
10				
11				高齢者に特徴的疾患(2)
12				
13				高齢者に特徴的疾患(3)
14				
15				介護認定、緩和医療、終末期医療
16				

履修者へのコメント	<ul style="list-style-type: none"> 内科学と重複するところがあるが、同じ内科疾患でも高齢者に特徴的な変化がみられる。その特徴的違いを学ぶこと。高齢者に特徴的な生理学的変化を学ぶことにより、より安全で、効率的、相手の立場になって考えられるリハビリテーションを行うための一助に。
-----------	---

教科書	<ul style="list-style-type: none"> 臨床老年医学入門 すべてのヘルスケアプロフェッショナルのために 日野原重明監修 (医学書院)
-----	--

参考書	
-----	--

科目名	内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間
リハビリテーション学総論Ⅲ	講義 演習	後期	PT3年	4単位	60時間

教 育 目 標	【一般目標】 理学療法とスポーツ、その現場での実際の事由について理解する
	【行動目標】 スポーツと理学療法との関わりについて知識を得る 実際のスポーツ現場での理学療法士の役割について知る スポーツ現場での評価方法を体験する

成績 評価 方法	定期試験およびレポートなどを総合的に判断する
----------------	------------------------

回	月日(曜日)	時限		内容
		A組	B組	
1				オリエンテーション 自己紹介
2				
3				様々な現場で行われるスポーツ理学療法
4				
5				予防(ウォーミングアップ、クールダウン、ストレッチ)
6				
7				トレーニング(筋力トレーニングの原則、現場で行われているトレーニング)
8				
9				熱中症、脳震盪などの救急対応
10				
11				テーピングなど
12				
13				スポーツマッサージ
14				
15				症例別の実際の理学療法①
16				
17				症例別の実際の理学療法②
18				
19				動作の評価(実際の映像を見て 野球)
20				
21				動作の評価(実際の映像を見て 球技など)
22				
23				動作の評価(柔道、剣道など)
24				
25				理学療法士+αのトレーナ資格について
26				
27				グループワーク①(実際のスポーツ動作を見ての評価)
28				
29				引き続きグループワークと発表
30				

履修者へのコメント
 授業中の私語は厳禁とする。注意をしても守れない者は退室させる。教室の座席については、指定された席に着席して授業に臨むこと。Keywordに基づき、集中して授業を聞き取ることが必須となる。さらに派生する重要事項も吸収することが必要で、1時間半の集中を要求する。実習の際は、事前に指定するので動きやすい服装を準備すること

テキスト
 プリントを配布する

参考書
 投球障害肩 こう診てこう治せ 山口光國 メジカルビュー社

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習 I		実習	前期	PT3年	7単位	315時間	渡邊司
教 育 目 標	<p>【一般目標】 保健・医療・福祉に関わる理学療法士としての態度を身につける。これまでのに習得した知識・技術を臨床の場面に応用し、対象者の問題を解決する基本的な知識・技術を向上させる臨床実習指導者の指導の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの基本的な理学療法を実施できるようになること。</p> <p>【行動目標】 ①専門職として責任ある態度・行動をとることが出来る。 ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し専門職としての人間性を養う。 ③臨床実習指導者の指導の下に理学療法評価を実施し、適切な治療計画を立案し、基本的な理学療法を実践できることが望ましい。 ④守秘義務、個人情報保護について理解・実施する。 ⑤学生としての必要な記録と報告ができる。</p>						
	成績評価方法	別紙（総合臨床実習の手引き）参照のこと					
回	月日(曜日)	時限		内容	担当者		
		A組	B組				
	4月22日(月)	1・2		総合臨床実習 I ガイダンス	渡邊司		
	2019年 5月 6日(月) ～ 2019年 6月29日(土)			総合臨床実習 I	全教員		
	7月 1日(月)	1		総合臨床実習 I 終了後ガイダンス	渡邊司		
履修者へのコメント ・臨床実習指導者らの注意・指導を真摯に受け止め、研鑽することが求められる。							
テキスト ・指定なし							
参考書 ・指定なし							

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
総合臨床実習Ⅱ		実習	後期	PT3年	7単位	315時間	渡邊司
教 育 目 標	<p>【一般目標】 保健・医療・福祉に関わる理学療法士としての態度を身につける。これまでのに習得した知識・技術を臨床の場面に応用し、対象者の問題を解決する基本的な知識・技術をを向上させる臨床実習指導者の指導の下に、評価の実施、治療計画の立案、治療の実施、検証までの基本的な理学療法を実施できるようになること</p> <p>【行動目標】 ①専門職として責任ある態度・行動をとることが出来る ②リハビリテーションにおけるチームワークの重要性を認識し専門職としての人間性を養う ③臨床実習指導者の指導の下に理学療法を実践し、治療結果を再評価し、治療プログラムを修正できる ④守秘義務、個人情報の保護について理解・実施する ⑤学生としての必要な記録と報告ができる</p>						
	成績評価方法	別紙（総合臨床実習の手引き）参照のこと					
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
	7月12日(金)	1・2		総合臨床実習Ⅱ ガイダンス	渡邊司		
	2019年7月22日(月) ～ 2018年9月14日(土)			総合臨床実習Ⅱ ガイダンス	全教員		
	9月17日(火)	1		総合臨床実習Ⅱ 終了後ガイダンス	渡邊司		
履修者へのコメント ・臨床実習指導者らの注意・指導を真摯に受け止め、研鑽することが求められる。							
テキスト ・指定なし							
参考書 ・指定なし							

Ⅲ

専門分野

I. 基礎分野

i) 科学的思考の基盤 人間と生活

II. 専門基礎分野

i) 人体の構造と機能及び心身の発達

ii) 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

iii) 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

III. 専門分野

i) 基礎理学療法学

ii) 理学療法評価学

iii) 理学療法治療学

iv) 地域理学療法学

v) 臨床実習

vi) グループ学習

臨床実習

8単位

科目名		内 訳	開講時期	対象学年	単 位	時 間	担当教員
ゼミ 4		演習	通年	PT3年	2単位	30時間	渡邊司
教 育 目 標	【一般目標】 ・国家試験に向けて基礎科目の復習や実技練習を行い、知識・技術の定着を図る。 ・国家試験に出題される問題の傾向を理解する。						
	【行動目標】 ・これまでの実習で指摘された点を修正することが出来る。 ・国家試験問題の解説を作成することが出来る。						
成 績 評 価 方 法	提出物および期末試験を総合的に判断する。						
回	月日(曜日)	時 限		内 容	担 当 者		
		A組	B組				
1				座学・実技	全教員		
2				座学・実技			
3				座学・実技			
4				座学・実技			
5				座学・実技			
6				座学・実技			
7				座学・実技			
8				座学・実技			
9				座学・実技			
10				座学・実技			
11				座学・実技			
12				座学・実技			
13				座学・実技			
14				座学・実技			
15				座学・実技			
16				座学・実技			
17				座学・実技			
18				座学・実技			
19				座学・実技			
20				座学・実技			
21				座学・実技			
22				座学・実技			
23				座学・実技			
24				座学・実技			
25				座学・実技			
26				座学・実技			
27				座学・実技			
履修者へのコメント							
<ul style="list-style-type: none"> ・座学、実技練習で学んだ基礎知識、評価方法などの練習は授業内だけでなく授業外でも復習を必ず行うこと。 ・国家試験に向けて、各自が自覚を持って取り組んでください。 							
テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・指定教科書はなし。各担当教職員の指示に従う。 							
参考書							
<ul style="list-style-type: none"> ・各自テーマに合わせた参考書を用意する。 							